

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
1	北海道	介護分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地実習に重点を置いているほか、ボランティア介護への参加勧奨など現場を重視している。</li> <li>・初任者研修後、企業実習を形態の異なる2か所(「グループホーム」と「サ高住」等)で実施、就職後のミスマッチ解消に繋がると考えている。</li> <li>・修了生のフォローアップとして、実習で訪問の際の様子をみるほか、当校同窓会の活用、個別連絡、就職先への確認など様々な方法で行っている。</li> <li>・訓練制度の普及啓発が十分ではなく、就業中の無資格者が制度を知らないなど本来支援されるべき人が利用できていないように感じる。</li> <li>・賃借料の値上がり、フリー外部講師との専属契約(訓練の質を向上)のため、基本奨励金の金額を上げてほしい。</li> <li>・高齢化が進展する中で、介護専門職のニーズは極めて高く、毎日のように関連施設から人材の問い合わせがあるが、絶対的な人数が不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「演習(実技)」は役に立ったし演習時間数を増やしてほしい。ただし、受講生同士による演習のため、実際の介護とは異なってしまう。(実際の現場の方が大変。)</li> <li>・内容が重複している部分は再構築して簡素化した方が学びやすくなるのでは。(「こころと体のしくみ」「発達と老化の理解」「介護の基本」)</li> <li>・入浴介護については日常的に必要なため、もっと学んでおきたかった。排泄についてもポータブル便器での実習のみであったので、実際の現場に近い環境で学べればスムーズな対応ができると感じている。</li> <li>・様々なパターンの演習(実技)をしたかった。利用者の性別、体型、健康状態、車いす利用、施設の階段の有無など。</li> <li>・人に寄り添うという意味では販売と共通点があるが、販売は顧客に「ありがとうございます。」と言うもので、介護は逆に「ありがとうございました。」と言われる。そこが大きく異なることと思うし、やりがいを感じることであり、もっと早く介護の道に入れば良かったと思っている。(販売業経験)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に対する考え方、高齢者に対する接し方などは、カリキュラムとして特に重要。</li> <li>・企業実習時間が多いと採用につながり易いのではないかと。就職先企業の選択肢も広がるし、業務内容に対する不安の解消にも繋がると思う。また、同じ実習先で企業実習の期間を長くすれば、実施できる内容も変わってくるのではないかと。</li> <li>・人生の先輩、高齢者に対する尊敬、やさしさなど、コミュニケーションの方法など介護の本質を理解している。未経験者は、そこから教育していかなければならない。</li> <li>・採用時に最も重視するのは高齢者に対する思いや介護職を目指したきっかけである。コミュニケーション力は大事なことであるが、それよりも人柄が重要になってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムにおける座学及び実習の配分見直しを検討。</li> <li>・ハローワークにおいて訓練コースの内容や効果を踏まえた受講勧奨の強化が必要。</li> <li>・わかりやすいHPの作成、ハローワークにおける周知広報を推進。</li> <li>・訓練実施機関からハローワークの求職者に対する事前説明会や見学会を開催を推進。</li> <li>・増額について引き続き本省へ要望していく。</li> </ul>
2	青森	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練実施にあたって工夫している点</li> <li>・パソコン初心者の方が多いため、丁寧な指導に心がけている。</li> <li>・タッチタイピングができるようになるため、毎日タイピング練習の時間を設けている。</li> <li>・朝のスピーチ練習で、就職活動時の面接試験などで適切な自己表現ができるよう練習をしている。</li> <li>●キャリアコンサルティングの状況</li> <li>・ジョブカード作成支援を通して自身の棚卸を行ってもらい、それを基にキャリアコンサルティングを実施。</li> <li>・LINEを活用して継続したキャリアコンサルティングの実施やキャリア形成支援</li> <li>●国への要望、改善して欲しい点</li> <li>・短期・短時間特例コース以外でも、就職活動のため、何日か1日の訓練時間について、3時間授業を設けたい。</li> <li>●日ごろ感じていること</li> <li>・最近の傾向として、健康者に交じりグレースゾーンの方が増えたように思う。</li> <li>・書類や取り扱いが各地で違うので、統一であれば良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●受講した訓練内容を特にアピールした点</li> <li>・履歴書に習得したWordとExcel3級を書いたことで、ある程度パソコンができたことと認知してもらえた。</li> <li>・ワード、エクセルの資格2級まで取得することができた事をしっかり伝える事ができた。</li> <li>・簿記3級をとって、求人幅が広がった。</li> <li>●訓練内容のうち、就職後に役に立ったスキル</li> <li>・パソコン基本操作(マウス、Windowsの基本操作等)、正確で素早いタイピング。</li> <li>・ワープロソフトによる基本操作(書式設定、表作成、保存、印刷、ファイル操作と管理、図形・写真の挿入等)。</li> <li>・表計算ソフトによる基本操作(セルデータの作成、ワークシートの設定、数式や関数の適用、グラフ作成等)。</li> <li>●就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル・技能</li> <li>・日商簿記検定3級を訓練中に取得できなかったため、時間があつたら習得したい。</li> <li>●職業訓練に係るご意見や要望</li> <li>・訓練終了後、復習できる講座があれば受講したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練により得られたスキル、技能等のうち、採用後に役立っているもの</li> <li>・パソコンの基本(構成、使用方法、インターネットとネットワーク、IT活用)の方法、マウス、Windowsの基本操作等)、正確で素早いタイピング。</li> <li>・ワープロソフトによる基本操作</li> <li>・ワープロソフトを使った実践的な文書作成</li> <li>・表計算ソフトによる基本操作</li> <li>・表計算ソフトを使った実践的な資料作成(基礎的関数を使い、グラフ、データベースつきの資料作成)</li> <li>●訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等</li> <li>・コミュニケーションスキル。</li> <li>・プレゼン資料作成、マーケティング、Webデザイン。</li> <li>・給与のしくみ。労働保険の基礎知識。</li> <li>●訓練修了者の採用について、未受講者(未経験者)の採用の場合と比較して期待していること。</li> <li>・訓練で習得したことを実務に役立てることができるポジションに就かせられるよう当社としてミスマッチのないようにしている。</li> <li>●意見・要望</li> <li>・インストールされたソフトウェアのバージョンに対応できるように。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【OA関係】</li> <li>○初心者や他分野への就職希望者を対象として、文書作成(簡単な文書の作成、画像・写真・ワードアート等の挿入、表の作成等)や表計算(文字・数字の入力、簡単な関数等の活用)等の基礎的な能力を強化することを目的としたカリキュラムを盛り込む。</li> <li>⇒基礎的なデジタルリテラシーの習得</li> <li>○経験者や基礎的な能力を有する者等を対象として、文書作成(やや高度な所意識設定)や表計算(やや高度な関数、マクロの記録やVBAを使用し、定型業務を自動化することができる)、プレゼンテーションソフト、WEBデザイン・ホームページ作成等の実践的な能力を強化することを目的としたカリキュラムを盛り込む。</li> <li>⇒DX推進人材となるための基礎的な能力の習得</li> <li>【OA関係以外】</li> <li>○実務演習(労働保険の計算、雇用保険手続、健康保険・厚生年金保険手続等)等の実践的なカリキュラムを盛り込む。</li> <li>⇒資格取得+実務能力の養成による即戦力人材の確保</li> </ul>
3	岩手	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアコンサルティングの実施</li> <li>・コンサルティングがうまくいかなかった事例について、他のコンサルタントに助言を受けるなど、レベルの向上に努めている。</li> <li>・他に聞かれる事のないよう、受講者が安心して相談できる環境でコンサルティングを実施している。</li> <li>○その他</li> <li>・訓練内容に直接関係はしないが、企業で環境美化の一環で使用できる可能性があるため、「刈払機取扱作業安全衛生教育」を実施している。</li> <li>○訓練生の確保対策</li> <li>・募集のリーフレットに「3か月で〇〇の資格取得」が目標であることを明記することで、本気で学びたい人、訓練レベルに合った年代の受講生が集まる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○就職支援</li> <li>・訓練施設とハローワークを利用し就職。訓練施設の支援内容で改善等を求める点はなし。</li> <li>○カリキュラムでの改善を求める事項</li> <li>・カリキュラムの内容は良好で特に改善を求める意見はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パソコンのスキル</li> <li>・専用ソフトを使用するので、基本的な操作ができれば良い。</li> <li>・AIなど先進的なソフトは使用していない。(訓練に取り入れるべきソフトなどは思い付かない)</li> <li>・資格は仕事上では重視していないが、本人が取り組んできた結果として面接時には一定の評価となる。</li> <li>○求められるスキルや技能</li> <li>・社会経験が少ないからかもしれないが、作業指示を理解する力が低いと思われるケースがあった。</li> <li>・訓練で習得するのは難しいと思われるが、コミュニケーション能力を重視している。</li> <li>○その他</li> <li>・人手不足のため、採用基準を設定する状況にない。</li> <li>・挨拶がきちんとできる人を採用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○検討1</li> <li>・求められるスキルや技能</li> <li>「指示理解力」「コミュニケーション能力」の向上については、訓練カリキュラムにどのように組み入れられるか検討が必要であるが、現行の訓練カリキュラムでも、就職率向上の観点から配慮を盛り込むことは重要と思われる。</li> <li>・キャリアコンサルティングの実施</li> <li>キャリアコンサルティングの実施については、各施設の有資格者の人数等に差があるため、一概に変更を求められないが、好事例を展開することは有効と思われる。</li> <li>⇒周知用リーフレットの配付を検討</li> <li>○検討2</li> <li>・その他(刈払機取扱作業安全衛生教育)</li> <li>企業で使用できる可能性があり、就職にも有利であるとの意見があり、WG内で検討した結果、「有効性は認められるが、訓練科目に直接関係しない科目を必須とすることは難しい」との結論となり、訓練施設内で対応可能な施設に好事例展開をすることとする。</li> <li>○検討3</li> <li>・訓練生の確保対策</li> <li>訓練のレベルを設定できれば、より受講生に合った訓練が実施できると思われる。今後、訓練のレベル分けが可能か検討する。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
4	宮城	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界団体の会員企業から出される要望を基に、カリキュラムに反映している。</li> <li>実践的な内容とするため、開発演習の内容を工夫(演習内容の見直し、グループ演習の導入等)している。</li> <li>集合教育の利点を活かすため、開発演習以外でもグループ演習を取り入れている。</li> <li>業界の実務経験や新人研修等の実績のある講師に依頼している。</li> <li>訓練と業務現場とのギャップを出来る限り抑えるよう、開発環境や管理ツールなどは、実際に現場で多く利用されているものを体験できるように考慮している。</li> <li>業種理解・職業理解を促すための説明や情報提供に力を入れている。</li> </ul> <p>・訓練を修了できる学力があるか、訓練カリキュラムが修了後の就職のイメージにマッチングしているかを測れる選考基準へ見直しを希望する。【県委託訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学科・実技それぞれで80%以上の出席要件となっているが、訓練コースによっては、時間数に偏りがあるため、総訓練時間の80%以上を修了要件としてほしい。【県委託訓練】</li> </ul> <p>・ハローワークを利用せずに就職活動している方が少なくないと感じている。もっとハローワークを利用する方が増えれば、より多くの方に職業訓練を受講してもらえるのではないかと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義内容は、もう少しビジネス的な知識や会計等の実践向きのプログラム設計にしてもらいたかった。</li> <li>Excelの講義もあったほうがよかった。IT関連の資格を持つ方でもExcelを使ったことがないと聞くことがあり、多くのIT関係や事務関係の職場で使用するツールであるので、短時間でも講義があった方がよいと思う。</li> <li>訓練実施機関が提供する求人情報は、高い学歴や経歴を求めるものが多く、訓練受講者にはマッチしていないと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近、企業からの問い合わせが多いJava、Pythonのスキル。SQLへの理解度がより高いとよい。</li> <li>派遣先では様々な企業から出向等してきた方たちとチームを組んで仕事をするため、コミュニケーション能力が重視される。コミュニケーション力を向上させるカリキュラムがもっと充実しているとよい。</li> <li>メールのやり取りが非常に多く、未経験者は表現、言葉選びに戸惑い、時間を要することがあり、ビジネスメールのスキルを習得できるとよい。</li> <li>未経験者に比べ、訓練修了者は6か月の学びがある分、採用後研修をスムーズに進めることができています。</li> <li>入社後も教育を行うが、職業訓練で素地を習得することは大きい。</li> <li>訓練受講者も、最初は何の言語・技術を習得すればよいか分からない状況ではないか。ガイダンス的に幅広く学ぶ機会を設けた上で、どの言語等を習得するか選択した上で、掘り下げて学んでいくような仕組みがあればよいのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R6年度の公的職業訓練実施計画において、デジタル分野の公的職業訓練の定員数を拡充する。</li> <li>企業実習やグループでの開発演習等、就労現場を想定したより実践的な授業の進め方により、企業から求められるコンセンチュアルスキル(問題解決力、課題解決力)を副次的に身につける。</li> <li>ハローワークの求人部門と訓練部門との連携による、訓練修了者歓迎求人等の確保。</li> <li>訓練実施機関とハローワークの連携による、求人情報や求人企業説明会等の情報提供。</li> <li>訓練実施機関からハローワークの求職者に対する事前説明会や見学会の開催を推進。</li> <li>職員向け知識習得のための研修の実施</li> <li>引き続きホームページやSNS、関係機関との連携によるイベント等を活用した訓練の周知・広報を行い、職業訓練の認知度の向上・活用促進を図る。</li> <li>訓練実施機関から、選考基準及び修了要件等の見直しの要望があり、見直しが必要な事項に関しては、取扱要領等の改正について本省に要望を行う。</li> </ul>
5	秋田	IT分野	<p>【習得能力】～訓練内容が訓練受講者の習得を要する能力に合致しているか検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連職種以外ではオーバースペックだが、関連職種では物足りない場合あり</li> <li>初心者が訓練を受けると相当難易度が高いと感じるようである。</li> </ul> <p>【企業ニーズ】～訓練内容は企業が求める人材像に合致しているか検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報産業と情報産業以外の企業で求めるデジタル人材が異なる可能性がある。</li> <li>情報産業以外の企業では、「メールサーバーを設定する」、「SNSとサイトを活用する」などWeb言語に精通していなくても知識を持っている方を求めている場合がある。</li> </ul> <p>【就職支援】～効果的な就職支援が行えているか。受講にあたり、採用後の活躍場面は明確か検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアコンサルタントとの面談や就職支援の時間を増やすなど工夫している。</li> <li>要望に応じて、追加のキャリアコンサルティングの設定も行っている。</li> </ul>	<p>【習得能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連就職か否かを問わず受講満足度は高い。</li> <li>関連職種以外でもHP作成やDB処理等の技能が活用されている。</li> </ul> <p>【企業ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関連就職か否かを問わず受講満足度は高い。</li> <li>関連職種以外でもHP作成やDB処理等の技能が活用されている。</li> </ul> <p>【就職支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資格取得のための知識が直接役立つ機会はあまりないこともある。</li> <li>就職先では、基礎的な内容が一番役立っている(関連職種以外)。</li> </ul>	<p>【習得能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業ごとにも必要なスキルが異なるため、個別企業に応じた訓練設定を希望。</li> </ul> <p>【企業ニーズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報産業以外の中小企業では高度なデジタル人材より、比較的基礎的なスキル(HP更新やDB処理等)を求めている場合がある。</li> </ul> <p>【就職支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訓練により習得した技能等により未経験者より早く仕事に慣れてほしい。</li> <li>訓練修了者の応募機会を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の実情に応じた能力開発が行えるよう、在職者訓練を充実させるとともに、人材開発支援助成金等の様々な支援と合わせた活用の促進が必要。</li> <li>引き続き高度なデジタル人材の育成に取り組むとともに、幅広い産業で求める情報リテラシーの訓練内容を組み入れた訓練コースの設定が必要。</li> <li>企業の求める人材像の明確化と求人票への明確な記載など、訓練内容を活かした就職実現に向けた支援の強化が必要。</li> </ul>
6	山形	パソコン・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>求人状況を把握しword・Excelを最低限習得できるカリキュラム設定としている。</li> <li>受講生は年齢も様々であり、入講時にPCレベルの把握をし、レベルの低い受講生に合わせ授業を進めているが、高いレベルの受講生には、スキルを伸ばす工夫をしている。</li> <li>キャリアコンサルティングについては、コミュニケーションを取りやすくする工夫をしている。</li> <li>就職率の向上を図るため、ハローワークでは自分の担当を決めて相談するよう推奨している。</li> <li>就職率向上のため履歴書の添削指導を実施している。</li> </ul> <p>【訓練施設からの要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委託費・奨励金の増額をお願いしたい。</li> <li>最低保証金制度を設けてほしい。</li> <li>キャリアコンサルタント等有資格者以外によるキャリアコンサルティングの継続措置をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講前は入力レベルだったが、訓練受講で自信が生まれた。</li> <li>Word・Excelは使用頻度も高く、受講で身に着けた知識は今の仕事で役立っている。</li> <li>パワポ・アクセスは使用機会が無いが学べてよかった。</li> <li>PC使用経験があまりなかったため期間が短いと感じた。</li> <li>Excelの時間配分を増やしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word・Excelを使用している業務が多く役立っている。</li> <li>当社での業務ではこれ以上のスキルは必要ない。</li> <li>アクセス・パワポのカリキュラムがあるが、当社での業務では使用機会が無い。</li> <li>受講生は一通りWord・Excelを学んでいるので不安は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Word、Excelは訓練の中心となるが、それ以外のカリキュラムについては、採用企業の実況、求職者の目指す職種などにより変化する。また、入講者のレベル毎に合わせたカリキュラム作成は困難であり、統一的カリキュラム作成は困難なため、求職者自身が自分に必要と見極めることができる、詳細な訓練情報を訓練説明会や訓練募集チラシの内容に盛り込んでいく。</li> <li>実施機関だけでは就職率向上を図ることは難しく、ハローワークとの連携は不可欠である。ハローワークで実施している「求職者担当者制」をほかの訓練施設の受講生にも推奨していく。また、求人の確保も重要であり「訓練修了者歓迎求人」の確保も併せて推奨していく。</li> </ul> <p>【要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訓練施設から要望については、厚生労働省へ上申。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
7	福島	デジタル分野	<p>1 訓練実施にあたって工夫している点</p> <p>(1) 学科・実技ともに受講生の習熟度にあわせてカリキュラムを進めている</p> <p>(2) 受講生がお互いに協力しながら進められるような雰囲気づくりに努めている</p> <p>(3) 講師が全体フィードバックを行っている</p> <p>自由記入欄 習熟度確認のため、練習問題を多く行い自己成長を実感し、自信を持てるようにしている。</p> <p>2 訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況</p> <p>(1) 定期的にジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングを実施している</p> <p>(2) 定期的な個人面談や1on1ミーティング</p> <p>(3) グループワークを実施している</p> <p>自由記入欄 個々の立場に寄り添い、訓練、就活等、前向きに進めるような状況にあわせて面談を実施。</p> <p>3 今後、実施を検討している訓練内容</p> <p>(1) 医療事務コース</p> <p>(2) 郡山市の開催だった「DTP-Webデザイン科」を福島市で開講する検討をしている。</p> <p>(3) DTPや経理のエキスパートなど。</p> <p>4 訓練修了者に期待すること</p> <p>(1) 習得した技術を活用して活躍してほしい</p> <p>(2) 訓練で学んだコミュニケーションスキル等を業務に役立ててほしい</p> <p>(3) 受講生ネットワークを構築し、お互い切磋琢磨してほしい</p> <p>5 訓練実施にあたって国への要望、改善してほしい点</p> <p>(1) 物価高騰の中、訓練実施に関する経費もかなりの割合を占めることとなった。これらの状況の変化に伴い、委託費の改定をしていただきたい。</p>	<p>1 就職後に役に立ったもの</p> <p>(1) 文書作成、業務集計等のスキル</p> <p>(2) プレゼンテーションスキル</p> <p>(3) 広告、チラシ等のツール作成スキル</p> <p>(4) ホームページ作成・管理等</p> <p>(5) 情報収集・整理の手法</p> <p>(6) 他の受講生とともに学んだ協調性(対人スキル)</p> <p>2 就職後に感じた、より一層習得しておくことが望ましいスキル</p> <p>(1) 業務進捗管理力(PDCAサイクル等)</p> <p>(2) 関係部署等の調整力(対人スキル)</p> <p>(3) SNSやWebによるマーケティング知識</p> <p>(4) 経理の知識(1人2役、3役の実態がある)</p> <p>3 訓練に対する評価・要望</p> <p>(1) 個人のペースにあわせて指導してくれた</p> <p>(2) グループワークや講師との個別面談の時間がほしい</p> <p>(3) PCソフトが最新であればなお良かった</p> <p>4 資格取得に対する考え等</p> <p>資格を取得したからといって、仕事に役立つとは限らない</p>	<p>1 訓練により得られたスキル、技能のうち、採用に役立っているもの</p> <p>(1) 文書作成、業務集計等のPCスキル</p> <p>(2) 情報収集・整理の手法等</p> <p>(3) データ集計</p> <p>(4) 他の受講生とともに学んだ協調性</p> <p>2 訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技術等</p> <p>特になし</p> <p>3 訓練修了者の採用時、未受講者(未経験)の採用の場合と比較して、期待していること</p> <p>(1) 文書作成能力、PCスキル</p> <p>(2) 理解力</p> <p>4 訓練修了者の採用時に重視する点</p> <p>(1) コミュニケーション力</p> <p>(2) 対人調整(調和)力</p> <p>(3) 仕事(作業)理解力</p> <p>5 訓練修了者を採用した評価</p> <p>(1) 訓練により習得した技術等により的確に業務を進めている</p> <p>(2) 対人調整(調和)力を活かして業務を進めている。</p> <p>(3) クライアントに対する説明が良い、的確である。</p> <p>6 公的職業訓練に対するイメージ</p> <p>(1) 受講者の再就職に役立っている</p> <p>(2) 受講者の技能・知識・知見の習得に役立っている</p> <p>7 若年者の労働力の活用に向けて必要と考える訓練コースは?</p> <p>(1) コミュニケーション能力向上コース</p> <p>8 高齢者の労働力の活用に向けて必要と考える訓練コースは?</p> <p>(1) PCスキル、機械、PC技術の習得</p> <p>9 その他、ご意見、要望等</p> <p>(1) もう少しレベルが高い内容があってもよいかもしれない。</p> <p>(2) 同じ文章を書くにしても、論理構成を整えるなどの訓練も必要ではないか。</p>	<p>1 企業ニーズ等の把握に努め、当該ニーズの変遷に対応できるようカリキュラムを検討することが必要。</p> <p>2 PCスキルのみならず、対人調整力やコミュニケーションスキル、さらにはWebマーケティングの知識を習得することも有効。</p> <p>3 求職者のニーズを的確にとらえるため、次年度はもう少し詳細なヒアリングを実施したかどうか。</p> <p>4 Webマーケティングの知識や知見を付与することも有効である可能性がある。</p>
8	茨城	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業やハローワークへのヒアリング、経済団体等へのリサーチ等により求人・求職ニーズを把握している。</li> <li>就職希望分野と技術習得の難易度を考慮したステップアップ式のカリキュラム構成及び段階的支援を行っている。</li> <li>広く適性が見極められるよう、プログラミングにウエイトを置きつつ、ExcelやWeb制作を取り入れている。</li> <li>実務経験のある講師に依頼し、就職に必要な知識をカリキュラムに反映している。</li> <li>就職した修了者等からの意見及び質問等を参考に訓練内容を見直している。</li> <li>空き時間を利用した訓練課題への取組(予習・復習)を推奨している。</li> <li>IT系企業や派遣会社等を招聘し、企業の求める人材、求人等の説明及び求職状況等の説明会を実施している。</li> <li>訓練開始1か月目にジョブ・カードを作成し強みを発見(自己理解)させている。</li> <li>訓練の目標はあくまで就職のため、訓練期間中の就職を目指し、訓練と同時並行の就職活動を指導している。</li> <li>受講者が面接で質問された内容を就職支援室に掲示し共有している。また、受講者の面接時の体験を、3分間スピーチで発表している。</li> <li>公共職業訓練の委託費と求職者支援訓練の奨励金の条件等を統一してほしい。</li> <li>IT関係の訓練に使うソフト使用料の負担が大きいことから、委託費の単価上限額を見直してほしい。</li> <li>訓練制度の周知・説明する機会を可能な限り設けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6か月コース修了者</li> <li>広く浅くIT関係の「入口」という点で無駄な訓練項目はない。</li> <li>システム開発業務に就業するにあたり、Web関係の知識はあまり活用されていないが、IT関連の流れをつかむ上では必要。</li> <li>5か月コース修了者</li> <li>Webデザイナーとして就業する場合に、Excel・Wordは必ずしも必要ない。</li> <li>3か月コース修了者</li> <li>事務スキル(Excel)が役に立った。</li> <li>3か月訓練ではタイトなスケジュールに感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C言語プログラミング、データベース構築、ネットワーク構築、通信制御の知識習得は役に立っており、それ以外の科目もシステム系の一連の流れを知っておくのは有用。</li> <li>Photoshop、illustrator以外のソフト(AdobeXD、Figma)も学んでおくとうまい。</li> <li>訓練を通じて習得した内容をPRできる職務経歴書、成果物等の作成や、ITサポートや基本情報技術者等の資格取得が望ましい。</li> <li>ある程度の知識を持って入社してもらえば社内研修期間が短縮できる。</li> <li>訓練修了者に対する期待度は高く積極的に採用したいので、今後もっと訓練受講者が増えてほしい。</li> <li>知識・スキルの可視化が図れるよう資格取得のできる職業訓練を期待したい。また、企業実習は、習得したスキルの程度が図れる良い手段と思う。</li> <li>デジタル分野の知識があることに加えて、本人のやる気やコミュニケーションスキルも考慮して採用を決定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Webデザイン系の訓練が多いため、労働局を関係機関が連携し、プログラミング系の訓練実施機関の開拓に努める。</li> <li>訓練内容に応じた訓練期間の検討。</li> <li>資格取得は訓練修了後の習得度を把握するためのわかりやすい目安となることから、訓練期間中の資格取得を推奨。</li> <li>企業実習を併せた訓練の実施を推奨。各関係機関が連携して実習先の開拓に努める。</li> <li>IT系企業を招聘して開催する企業説明会等の好事例の提案。</li> <li>訓練実施機関とハローワークが連携し、訓練説明会や見学会、個別相談会等を積極的に開催。</li> <li>ハローワークを利用しない層への周知として、SNS等を利用した周知を図っていく。</li> <li>「訓練修了者、未経験者歓迎求人」確保の取組強化。</li> <li>的確な訓練のあっせん就職促進のために、ハローワーク職員がデジタル分野における知識の習得を図るための研修を実施する。</li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
9	栃木局	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練内容をしっかりと身につけてもらうために、実務的・実践的な内容の説明を意識している。学んだ内容を実務の中でどのように活用するか、様々なケースを想定した課題に取り組ませている。</li> <li>・就職支援については、就職支援担当者だけでなく、授業担当の講師も日常的に質問に応じたり助言をしたりと積極的に就職支援に携わり、就職意欲の喚起をしている。</li> <li>・就職についての目標を明確化するようなキャリアコンサルティングをおこなっている。「仕事をしている自分」をイメージさせ、就職意欲を喚起している。</li> <li>・効果的な面談となるよう、予め受講生に質問を準備させている。</li> <li>・外部有資格者と就職支援担当者が情報を共有し、連携して就職支援をおこなっている。</li> <li>・国への要望・改善点として、訓練修了後の就職支援について、連絡が取れなくなってしまう受講生への対応に苦慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンの基礎知識や基本操作やビジネス文書や資料の作成などの実務的な内容が、就職後役に立っている。</li> <li>・ビジネスメールの作成やオンライン会議ツールの使い方、情報セキュリティに関することなど、より実務的な知識についても習得できるとよかった。</li> <li>・社会人基礎力として、社内外でのコミュニケーションのとり方や言葉遣い、電話対応などの接客マナーを身につけておけるとよい。</li> <li>・コミュニケーション能力の向上のため、訓練生同士で課題解決をするグループワーク形式のカリキュラムがあるとよい。</li> <li>・模擬面接など、より実践的な就職支援があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンスキルについては、Word、Excelなどの基本操作の習得とともに、PowerPointの基本操作の習得ができてるとよい。</li> <li>・MOSなどの資格・検定取得についても訓練の効果として評価している。</li> <li>・さらに、ITパスポートを学ぶコースなどワンランク上のパソコンスキルの習得ができてるとよい。</li> <li>・社会人基礎力(笑顔や挨拶などの基礎的ビジネスマナー)を身につけてほしい。</li> <li>・実務の中で求められるコミュニケーション能力(対話能力や状況判断能力など)一段階上の社会人基礎力の習得が、より望ましい。</li> </ul>	<p>&lt;訓練設定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なパソコンスキルとして、オンラインツールの知識・操作法の習得を推進する。</li> <li>・PowerPointを使用したビジネス文書作成法の習得を強化する。</li> <li>・ビジネスマナー講座など社会人基礎力の向上を図るコースを増やす。</li> <li>・企業での会議やプロジェクト企画を想定した、実践的なグループワークを設定する。</li> </ul> <p>&lt;就職支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練修了時から「就職のための職業訓練であること」を意識づけられるよう案内する。</li> <li>・ハローワーク担当者や訓練終了後の就職支援状況を随時共有し、連携して就職支援をおこなう。</li> <li>・より実践的な就職支援(模擬面接など)を受講生が求めていることを訓練実施機関へ周知し、支援内容や時間の充実を促す。</li> <li>・JEEDの求職者支援訓練サポート講習において、「受講生の就職希望の情報を外部キャリアコンサルタントと就職支援担当者が共有し効果的な就職支援をおこなっている」などの好事例を展開する。</li> </ul>
10	群馬	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Webデザインを受講したとしても、Webクリエイターは実務経験が必要となる場合が多いため、Web知識を必要とする事務職(サイトの運営・管理)等に就職する方も多い。そのため、就職の選択肢が広がるようにしている。</li> <li>・訓練期間を5カ月→6カ月としたことで卒業制作の質が向上し、結果として就職率向上につながった。</li> <li>・より実務に近い訓練となるよう、チームで成果物を開発するカリキュラムの導入を検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的意識を持って受講することで訓練が有意義なものとなる。未経験者は尚更、仕事内容が具体的にイメージできると良い。</li> <li>・未経験者が6カ月の訓練でWebデザイナー・クリエイターとして働けるほど甘くない。Web関連の基礎知識を身に付けて、職域を広げると考えたほうが現実的。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Webデザイナーとして就職を考える際にはグラフィックデザインの科目時間数が不足している。</li> <li>・職業訓練にて、データベースの技能・知識、プログラミングの実技も習得しておくことが望ましい。</li> <li>・6カ月で習得できる技能は限られると思うので浅くてもよいので多くの知識を習得して欲しい。</li> <li>・問題が発生した際に、その問題・課題に対する自己解決力や解決方法を身に付けてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練カリキュラムの構築にあたり、プログラミング言語の習得に加え、実践的な内容も加味することが有効。</li> </ul>
11	埼玉	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練内容について事前に受講者に丁寧に説明することでイメージとのギャップが少なくなるように努めている。</li> <li>・カリキュラムに高度な内容や最新の内容を取り入れるためには、外部講師の手に課題がある。</li> <li>・業界の動向や受講生のライフプランを踏まえたキャリアコンサルティングを早い段階から行うことによって就職活動を支援している。</li> <li>・(委託職業訓練の就職支援経費や求職者支援訓練の付加奨励金の受給要件を満たすための)就職率を満たすことは困難であるため緩和を希望する。</li> <li>・職業訓練により(業務委託契約など)雇用以外の形態で就労することになった者について制度上評価の対象とすることはできないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後に役立つ実践的なカリキュラム構成を希望する。</li> <li>・職務経歴書や面接指導など就職支援の充実。</li> <li>・個々の受講生に合わせて選択できるカリキュラムがあるとよい。</li> <li>・(1年間くらいの)長い訓練期間の設定。</li> <li>・修了後に更なる訓練を受講できる制度。</li> <li>・訓練受講給付金の受給要件の緩和。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な知識、技能のみならずコミュニケーションスキルや生活習慣、社会人としてのマナーを習得している点を評価。</li> <li>・(企業説明会など)企業と訓練生との接触の機会がもっとあるとよい。</li> <li>・職業訓練修了者の情報に企業からアクセスできる仕組みがあるとよい。</li> <li>・企業に向けて各職業訓練の内容と終了時期に関する情報を発信して欲しい。</li> <li>・(職業訓練をきっかけとして)自ら必要な知識を習得しようとする前向きな姿勢がある方を採用したい。</li> <li>・様々な内容やレベルの職業訓練があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム改善のための機器導入、指導者、テキストの開発などの側面的支援。</li> <li>・カリキュラムの細分化、訓練レベルの細分化の検討。</li> <li>・ミスマッチ防止のため、訓練説明会の活用や事前説明の徹底。</li> <li>・受講生のコミュニケーションスキル向上のための支援の強化。</li> <li>・ハローワークなどと連携した受講生に対する就職支援強化。</li> <li>・受講生と求人企業との接触機会の拡大。</li> <li>・訓練実施機関の新規参入促進。</li> </ul>
12	千葉	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座学だけでなく実技も重視。実機に触れて、現場で働く想定をしてもらう。</li> <li>・受講生のレベル差については、補助講師を付けて対応している。また、求職活動日や授業終了後も教室を解放し、講師を配置して質問等に対応させている。</li> <li>・自己理解、職業理解をしてもらうことに重点を置き、「スキル不足を感じている」場合などは、関連職種への転換も薦めている。(Webデザイナー → Webをメンテナンスできる事務担当者)</li> <li>・ITの技術進歩に対応するため、最新機種の入手費用に対する助成金や、企業との共同事業を行う場合の助成金があるとよい。</li> <li>・6ヶ月よりも長い訓練期間が設定できるとよい。(例:「ライティングページ作成」「映像関係」などは、受講者から希望が多い)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業制作は、個人での作品のみならず、グループで作成する課題も出て、役割分担を通じたコミュニケーションの練習にもなり、大変良かった。</li> <li>・人前で話すことや、プレゼンの練習が役に立った。対人関係スキルは結局必要になる。</li> <li>・労務、個人情報保護、マイナンバー等総務関係の書類作成の科目があると良かった。</li> <li>・訓練期間が6ヶ月間であるが、もっと長くてよい。「この習得した知識・スキルだけで、本当に就職してから大丈夫なのか？」不安に感じていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なITの知識、Excel操作、ビジネスマナー、電話応対、メールについての知識が役立っている。</li> <li>・IT全般、クラウド、SNS、マーケティング、Wordpress、ChatGP Tなどの知識があった方がよい。</li> <li>・採用の決め手は「卒業制作」と「ポートフォリオ」であった。「入社後の伸びしろがあるか」が重要な判断要素である。</li> <li>・早めに中堅社員になって他の人をまとめるリーダー的存在になってほしい。</li> <li>・通所の訓練よりコミュニケーションがとりづらいと思われるeラーニングの修了者には、魅力を感じない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修了者からは、グループワークやプレゼンの練習がコミュニケーションの練習になったと評価されており、企業側もコミュニケーション能力を重視しているため、グループワークなどコミュニケーション能力の向上を目的とした訓練カリキュラムを実施機関へ提案する。</li> <li>・企業側は、専門的な分野の知識だけでなく、デジタル全般の基本的な知識やビジネスマナーの習得についても考慮されたカリキュラムを求めているため、訓練生のニーズも踏まえながら、デジタル全般やビジネスの基本に関する訓練内容を含んだコースの企画提案も必要である。</li> <li>・最新機器の購入や企業との共同事業に対する助成金、6ヶ月以上の訓練の実施など、実施機関から要望のあった内容については、ワーキンググループの報告を通じ、厚生労働省へ要望していく。</li> </ul>
		介護分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練生に疑似体験(認知症、高齢者等)を行ってもらっている。</li> <li>・講師や卒業生に実体験(現場での苦労話)や、やりがいを語ってもらう。</li> <li>・受講者の参加型訓練を行い、グループワーク、コミュニケーション力・リーダーシップをつける。</li> <li>・訓練で得た知識と実際の介護現場との違いを体験・認識するため、また就職後、学校と実際の介護施設の実態との差に備えるため、企業実習を必ず実施している。</li> <li>・企業訪問を計画的に行い、訪問記録を作成して内容をスピーチするとともに、校内に貼り出し公開している。</li> <li>・介護職の訓練への応募者数が減少傾向にある。委託校をPRできる場が欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技や、疑似体験(高齢者、認知症及び障がい者の立場)、医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)が役に立っている。</li> <li>・受講者参加型訓練(グループワーク等)は、人との関わり方が学べてよかった。</li> <li>・介護施設見学は10施設程度行ったが、いろいろな施設に行き、違いがわかったため、就職先を決める際の材料になり非常によかった。</li> <li>・介護の対象が高齢者が障がい者か迷う。この方向付けをうまくできる授業もやって欲しい。</li> <li>・現在仕事についている知的、精神障害者施設で、障がい者への接し方についてスキル、技能をもっと学んでおくべきだったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の基礎理解、基本的なコミュニケーション能力、障がい者との関わり方の理解がある。</li> <li>・介護技術、医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養)など、非常によくやってくれている。</li> <li>・期間をもっと長く実習をやってくれると良いと思う。</li> <li>・高齢者介護が障がい者介護かの方向づけができる授業があっても良いと思う。</li> <li>・実習を経験しているため、職場に出てもギャップを感じることは少なく長続きする。介護に対する基本ができてるので安心して任せられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者介護が障がい者介護か方向性が定まらない受講生もいたため、職場実習等の実習先を工夫するなど、仕事の方向性を決定しやすくするように、実施機関へ提案する。</li> <li>・受講者参加型訓練(グループワーク等)や介護施設見学及び企業実習は、受講者からも企業からも評価されていることから、実施していない訓練実施機関で就職率が低迷している実施機関に参考としてもらう。</li> <li>・実施機関より、応募者数が減少傾向にあるためPRできる場が欲しいとの意見もあるため、現在ハローワークで行っている訓練説明会を強化し、幅広い実施機関が参加できるようにする。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
13	東京	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練カリキュラム・就職支援について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務現場で最も多く使用される言語や、基礎的な内容を重点的に学習できるカリキュラム設定（Javaを使ったWebアプリケーション構築、HTML、Illustrator、Photoshop等）</li> <li>・習得した技術を就職先でどのように活かすかを受講者に訴えつつ、繰り返し指導</li> <li>・IT業界や働く現場のイメージを持てるよう、職業人講話の講師は現場経験者を選定</li> <li>・就職活動にも利用できるポートフォリオの制作に力を入れ、「未経験でも投資できる人」と思わせる作品制作とプレゼンテーション指導</li> </ul> </li> <li>●情報セキュリティについて                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技の授業で、安全なプログラムを書くための一般常識レベルの情報セキュリティは教えている。</li> <li>・就職支援の場で、資料の持出、管理におけるヒューマンエラー防止の観点からのセキュリティについて話している。</li> <li>・ITリテラシーやウイルスチェック等を取り入れている。</li> </ul> </li> <li>●コミュニケーション力について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援の授業で開発現場やチームのコミュニケーションの重要性についての話をし、企業実習で実践させている。</li> <li>・コミュニケーションの苦手な方には対しては、授業時間外に個別にフォローしている。</li> <li>・訓練の最初の2日間で、クラスメイトの良い所を探して褒めまくるというワークや朝礼で順番に5分間のスピーチを行う。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練カリキュラム・就職支援について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・Javaは企業からリクエストされるプログラミング言語としてニーズが高く、本当にプログラマーの土台になり役立つ実感</li> <li>・デザインやコーディングなど幅広く学び、その知識は役立つ。</li> <li>・職業人講話において、業界の人から話を直接聞いたこと、学べたことが良かった。</li> </ul> </li> <li>●情報セキュリティについて                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・会社の考え、求めるレベル感に差違があるので、職業訓練では不要と考える。</li> <li>・リスク管理やセキュリティ研修は、就職後の会社での教育でよいと思う。</li> <li>・就職前に多く学ぶ必要はないが、常識レベルのネットリテラシーは必要だと思う。</li> </ul> </li> <li>●コミュニケーション力について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウレンソウ（報告・連絡・相談）、自分から話に行く姿勢、人と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意識が重要</li> <li>・不ポイントを的確に質問する力などが求められる。作業が円滑に進むのも、ミスが発生するのもコミュニケーションに起因する。</li> <li>・前職と業界が違うこともあり、言葉遣いや求められるコミュニケーションスキルの違いを感じる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●訓練カリキュラム・就職支援について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報やセキュリティカードの取扱いといった基本的事項については、1～2時間程度の授業はあってもよい。</li> <li>・リスク管理を意識させるため、実際にあった事件・事故、損害等について理解できるようなカリキュラムがあるとよい。</li> <li>・打ち合わせや会議の設定スキル、プロジェクトの進行、様々な方への対応、調整ができるスキル</li> <li>・基本情報技術者試験に合格していると強みになると考える。</li> <li>・WordやExcelのスキル、体裁の整った書類作成能力、これらが不足しているとPGの技術があっても現場では低評価となる。</li> </ul> </li> <li>●コミュニケーション力について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングのスキルより、要件をまとめて完結し質問ができるか、聞いた内容を理解しているかを重視している。</li> <li>・自分の考えを伝えないと仕事は進まない。人に何かを伝える能力や人を観察する能力が求められると思う。</li> <li>・会社としては、自分から行動できる方を求めている。テレワークのような質問しづらい環境でも手を挙げられることが大事</li> <li>・コミュニケーション力育成のための研修を実施している（ヒアリング対象の採用企業全てにおいて実施）。</li> </ul> </li> </ul>	<p>申請の説明会・相談などで、デジタル分野3コースの実施機関・修了生・就職先にヒアリングを行った結果として、以下のことを情報提供する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーション力として、①的確なタイミングでの要領を得た質問をする力②発表して相手に理解させる力③チームで実行するうえで調整力などが求められ、就職後も研修を行っているが、訓練として取り入れることは有効である。3分間スピーチ、グループワーク、褒めワーク、模擬面接などを積極的に取り入れるのも一つの手である。企業実習などで行っている実施機関もある。</li> <li>2 初歩的・基本的な個人情報セキュリティや常識レベルのネットリテラシーは必要。情報セキュリティは専門的・高度なもののニーズがあまりない。</li> <li>3 Javaは、多くの企業で、既設システムに採用しており、今後も、システム改修の発注などで、高い顧客ニーズが期待できる。また、プログラミング言語として、他の言語に活用可能な基礎力を備えていることが、短期間でプログラマーの土台を築くために、有効な言語のひとつである。</li> </ol>
14	神奈川	IT分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職の確立を高めるため、学習目的ではなく、就職に有効な技術や就職後に使える技術、求人にも多い言語（JavaやC言語など）を中心にカリキュラムを考えている。</li> <li>・企業側やIT業界のニーズを優先するため、開発現場で実際に活用している言語について企業へのヒアリングや求人票なども確認し、実際の現場で活用できる言語を意識している。</li> <li>・業界認識として現場の話や聞くなど、多様な業務があることを知ってもらっている。開発だけでなく、クライアントへの事務作業など実態に即した情報の提供をしている。</li> <li>・今は様々な情報が電子化されており、どこの職場でもIT技術を使わざるを得ない状況となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練で学んだことは、ほとんど役に立っており、一部実務で使用してはなくても、「知っている」ということが強みになり、基礎的な言語を学んだことにより、他の言語も覚えやすい。</li> <li>・グループワーク等を通して、業務の言語化（伝え方）の習得や、訓練内容をまとめるなど、実務における日報の作成にも慣れるとよいと思う。</li> <li>・課題で出される以上にポートフォリオをもっと多く作成しておけばよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎知識、用語がわかることは、アドバンテージにはなり、自社での研修期間を短縮することができる。</li> <li>・基礎言語も必要だが、ITパスポート、基本情報技術者を取得しておくことよい。</li> <li>・訓練受講の経験は、自己PRにつながり、自ら学ぼうとする、努力する姿勢がある方は、その後のスキルアップに期待ができる。</li> <li>・経験よりビジネススキル、異業種でもコミュニケーション能力の経験を重視している。</li> <li>・より実践的なカリキュラムやWebの場合は多種多様なポートフォリオの作成など。報告や、プレゼンテーションなどのコミュニケーション能力も重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT分野（デジタル分野）の訓練の設定の割合を令和5年度と同程度で継続</li> <li>・訓練実施機関によるハローワーク求職者に対する事前説明会や見学会の開催を推進</li> <li>・ビジネススキル、コミュニケーション力向上を図る訓練カリキュラムの強化について、実施機関へ依頼する</li> <li>・IT業界（デジタル分野）の認識の向上を図る</li> <li>・訓練修了者が応募できる求人の確保を図る</li> </ul>
15	新潟	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プログラミングを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は、理論や基礎演習に時間をかけて行うことによりプログラミングの基礎をしっかりと身につけている。</li> <li>・システム開発総合演習ではマーケティング課題解決の練習をしている。そこでは、クライアントの抱える課題を解決するために、プログラミングによってどのような企画提案ができるか企画書を作成しプレゼンテーションをしている。</li> </ul> </li> <li>【Webデザインスキルを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者に対しては、単にツール（ソフト）の操作方法を教えるのではなく、どのようなスキルが求められているのか理解させている。</li> <li>・4人一組のチームを組み、Webマーケティングの練習をしている。そこでは、クライアントの意図を正確に理解し実務に活かす力を培っている。</li> <li>・カリキュラムは、資格試験の受験科目に合わせるのではなく、実践重視の内容で設定している。ポートフォリオの制作に長い時間をあて、商業デザインレベルまで上達できるよう繰り返し作成し指導している。</li> <li>・作品（Webサイト）を制作・発表しているが、制作した作品は、企業実習の受入企業からも評価をつけてもらっている。（Webデザインをアートから商業デザインの方向へ寄せることができる。）</li> <li>・プレゼンテーションの練習により相手に分かりやすく伝えるスキルが上達するので、再就職後の業務だけでなく、就職活動においても役立っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プログラミングを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・6か月間の訓練では、即戦力にはならないが、プログラマーの仕事に従事するための、最低限の知識、スキルを身につけることができた。</li> <li>・プログラミング基礎演習とデータベース基礎演習で、プログラマーとしての基礎となる知識を身につけることができた。</li> <li>・訓練では、専門学校で2年間で習得する内容を6か月で学んだ。もう少し長い時間をかけて学べるとよかった。</li> </ul> </li> <li>【Webデザインスキルを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webデザインの知識は、独学で知識を身につけることもできるが、コーディングの基礎知識（理論）は独学で習得することは難しく、訓練受講が役に立った。</li> <li>・企画書の作り方で、生徒同士の提案、企業への提案などの演習は、訓練以外では経験できないもので貴重な体験だった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【プログラミングを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム言語については、コードの書き方が違うだけで、基本的な考え方は一緒。プログラムの基礎をしっかりと身につけていれば、新しい言語にも独学で対応できるため基礎をしっかりと訓練して欲しい。</li> <li>・訓練受講者は、学ぶ意欲があり、論理的に考える基礎ができていることが期待できる。</li> </ul> </li> <li>【Webデザインスキルを習得する訓練コース】                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションスキルは、顧客や上司とのコミュニケーションにおいても必要であり、業務に活かせる場面が多い。</li> <li>・企画提案基礎知識、広告実践では、プレゼンテーションを練習するが、コンセプトを構成して説明する方法を自ら考えるトレーニングをしており、就職後に社内での説明時にも役立っている。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムの改善により訓練効果の向上が期待できる以下の4項目について、効果検証の結果を基に資料を作成し、訓練時実施機関に対して訓練説明会や実施機関の訪問指導、実施機関開拓の際などに周知理解を求めたい。</li> <li>また、デジタル求人事業者に対しては、効果検証の結果を基に資料を作成し「訓練修了者歓迎求人」の提出に理解を求めたい。求職者に対しては、同じく資料を作成し、訓練受講のメリットについて理解を促し訓練の受講を勧奨する。</li> <li>（1）プログラミング等の基礎知識の習得                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング、データベース操作等、基礎知識（理論）に関するカリキュラムに十分な時間をあてる。（必要に応じて見直しを行う。）</li> </ul> </li> <li>（2）ビジネスで求められるスキルの習得を意識したカリキュラム設定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練カリキュラムはビジネスを意識した実践的な内容を盛り込む。例としては、①ポートフォリオの制作に十分な時間をあて、作品の評価には企業からの意見を加えるなど商業レベルのデザインまで上達できるよう繰り返し指導する、②Webマーケティングの練習を行いクライアントの意図を正確に理解し実務に活かす力を培う、③受講生0Bと教室をオンラインで繋ぎ、インタビューをすることにより再就職に向けた心構えを身につける、など。</li> </ul> </li> <li>（3）チームビルディングによる演習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・4～5人のグループで意見交換しながら課題を制作するチームビルディングを実施する。（実施可能か検討し必要に応じて見直しを行う。）</li> </ul> </li> <li>（4）企画提案・プレゼンテーションの演習                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画提案・プレゼンテーション演習に十分な時間をあてる。例としては、①企画提案・プレゼンテーションに複数の課題を設定し繰り返し練習する、②毎朝3分間スピーチで「空・雨・傘のフレームワーク（※論理的思考力を培うメソッド）」を実施し論理的思考とスピーチのトレーニングをする、など。</li> </ul> </li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
16	富山	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEBデザインの訓練コースにおいて、サンプルをいかに正確に作成できるか、サンプルと作成物との1ピクセルの違いにまで気づけるかなど、こうした意識を訓練中に持ってもらうように努めている。</li> <li>ITの考え方を理解することを目的に、エクセルの授業をカリキュラムに取り入れている。また、数学(微積分、ベクトル、行列)の授業を8時間設け、これらがIT業界にどう使われているのか講義している。</li> <li>フロントサイド(目に見える部分の開発)側のカリキュラムを充実させることが必要。バックサイドと比べ、フロントサイドの割合を高めている。フロントサイドは中小零細の企業自身でも取り組んでおり、求人数も多い。</li> <li>WEBデザイナーには、コミュニケーション能力(意思表示、気遣い)が必要。技術は最低限で可。</li> <li>言語がずっと使われるとは限らない。言語の前提となる、プログラムの考え方や思考力も重要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就職先企業のブログ更新を担当しており、基礎のタグ名の知識、Excel計算の知識が就職後に役立っている。</li> <li>訓練で学んだプログラミングのコードは、正しく記述しないと、想定している動作にならない。就職先はプログラミングコードを書く職場ではないが、文書を作成するうえで、プログラミングコードの考え方(曖昧な表現ではなく正しく伝えること)が活かされている。</li> <li>データベースの知識が役立っている。また、訓練の延長線上に仕事があり、訓練でやってきたことは無駄ではないと感じている。</li> <li>訓練で使用していたDreamweaverを就職先では使用していない。</li> <li>幅広い知識、技能より何かに特化したカリキュラムの方が良いのではないかと感じている。</li> <li>就職先現場を想定したチームでの開発演習があると良かった。</li> <li>テキストを使い基本的な知識を学ぶ点は良かったが、実際に就職して感じたことは、プログラミングの言語を絞り、一つの言語にもう少し時間をかけ、より実践的な内容(プログラミングをするときの考え方や課題の作成)にした方がいい。</li> <li>習った内容で今使わないのは「サブレット」だが、いずれ使えたら。今の段階で何が不要だったかは答えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワード、エクセル、パワーポイントの知識。また、専門用語の知識。専門用語の知識があるだけで、OJT等の進捗に違いが出る。</li> <li>コンピュータの基礎知識。用語を知っていると、OJTを効果的に行える。</li> <li>(採用した訓練修了者は)プログラム開発にあたって、どのようなことをすればよいかを理解していた。また、調べ方を教えたなら自分で調べる術を身につけていた。</li> <li>会社の経営ニーズとしては、一分野に特化した人がよく、一つの技術に特化した訓練カリキュラムを希望。しかし、中小企業では一人でも何役もこなさなければならず、職業訓練で幅広く知識を持つことも理解できる。(訓練カリキュラムをお見せしたところ)こうした構成でやむを得ないのではないかと感じている。</li> <li>ネットワーク関連の知識があればなお良い。また、就職後のイメージを持ってほしい。プログラマーの場合、就職後3年間は上司の指示通りの作業をできるようにしてもらいたい(チームワークを重視)、その後自分のアイデアを活用できるようにする。</li> <li>データマネジメントスキルを理解しておくことよい。</li> <li>プログラムは会社によって異なる。企業独自のルールを覚えて、早く馴染むことができるように自ら学ぶ姿勢が大切。</li> <li>社会人基礎力、コミュニケーション能力が必要である。</li> <li>訓練で培う技能とは異なるかもしれないが、「問題解決能力」(わからないときに自分で解決できる能力)が必要であることを意識してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) コミュニケーション能力の養成 求人ニーズのコミュニケーション能力を養成するため、以下取組のうち、いずれかを単独または複数を組み合わせて実施する。 ・実際の作業を想定したグループによる開発演習を訓練カリキュラムに導入。 ・訓練施設のキャリアコンサルティングで、コミュニケーションの重要性を教示。 ・コミュニケーション能力をテーマとした職業講話の実施。</li> <li>(2) 訓練受講希望者に対する柔軟な職種選択への支援 ハローワークでは、積極的に訓練施設を訪問するとともに、訓練施設との連携を深め、デジタル業界の求人ニーズを共有する。そのうえで、訓練受講希望者に求人ニーズを明確に提示し、就職へのミスマッチを防ぐ。 なお、デジタル業界に限らず、多くの業界でデジタル人材に需要があることから、ハローワーク相談窓口では応募職種を柔軟に選択できるような支援を行い、多職種への就職あっせんに配慮する。また、ハローワーク求人窓口では、デジタル分野の求人に限らず、他業種の求人についてもデジタル人材へのニーズを確認する。</li> <li>(3) リスキリング能力の養成 デジタル分野業界において、リスキリング能力(使用するプログラミング言語が変わることなどを背景に、IT業界において求められる、自ら主体的に学び続ける能力)が問われるところ、ハローワーク相談窓口で訓練受講希望者に対し、「職場における学び・学び直し促進ガイドライン」をもとに、自立的・主体的な学びを周知、勧奨する。 また、リスキリング支援制度(人材開発支援助成金、とやまリスキリング補助金)について、労働局訓練課と県労働政策課では各業界団体に対して、ハローワークでは個別企業に対して周知・勧奨しているところ、本取組を継続する。</li> </ul>
17	石川	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業と訓練修了者をマッチングしてくれる仕組みがあったらよい。</li> <li>職業訓練制度と修了者について、企業にもっと知ってもらうことが必要である。</li> <li>就職率の算定基準を緩和してほしい。</li> <li>求職者支援訓練のカリキュラムについて、「想定職種」を可能な限り1つに絞り、その専門知識・技能を習得するカリキュラムを設定するよう決められているが、周辺の職種や社内兼業ができる職務の設定を認めるような柔軟な対応をしてほしい。</li> <li>訓練内容の専門性が高いため、人件費が高く費用負担が大きいことから、講師の確保に苦慮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトウェアのバージョンが古い。</li> <li>モニターサイズが小さい。</li> <li>キャリアコンサルティングを全員一律で実施するのをやめてほしい。</li> <li>デジタル専門の求人がほぼ無いため、習得した訓練内容を活かすことができる他の職務内容を含んだ複合的な職務の求人を探しやすくしてほしい。</li> <li>訓練施設への通学にかかる交通費を補填してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業訓練という制度自体を知らなかったが、訓練修了者を雇用できてよかったと考えている。</li> <li>訓練で専門知識を学んできてくれたので助かった。</li> <li>訓練内容に+α(写真技術、営業知識・スキル)がほしい。</li> <li>訓練で学んだ内容のみの専門職で採用することは難しく、その他の業務に携わる可能性が高いので、周辺の知識・スキルを身につけてほしい。</li> <li>社会人としての一般常識、ビジネスマナー等を再教育してほしい。</li> <li>企業の求人内容に合った訓練施設を紹介してほしい(その施設の訓練修了者を採用する可能性あり)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のソフトウェアへの更新や新しい設備の導入について、訓練実施機関へフィードバックを行い、可能な範囲での対応を依頼する。</li> <li>ハローワークの求人票に職務の詳細な内容を記載することで、訓練修了者が応募可能な求人を増やす。</li> <li>職業訓練を周知するリーフレットを作成し、事業主へ配布する。</li> <li>引き続き訓練カリキュラムの内容を充実させる。</li> <li>就職先によって必要とされる「+α」が異なるため、訓練カリキュラムとしての設定は困難であることから、在職者向け訓練での対応を提案する。</li> <li>社会人としての一般常識やビジネスマナー等を訓練カリキュラムに盛り込む。</li> <li>ハローワークにおいて、訓練実施機関と連携し、訓練修了者の就職支援に取り組む。</li> <li>就職率の算定やカリキュラム設定の基準の見直しを本省に要望する。</li> </ul>
18	福井	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>現役デザイナーを講師としており、web業界で実際に使われている言語が習得できる訓練を行った。</li> <li>自宅復習を希望している訓練生にはパソコンを貸与。</li> <li>資格試験前には、施設を開放し希望者に勉強会を実施。</li> <li>早期(修了2か月前)の企業見学を実施、現場を見ることで訓練生のモチベーションを上げている。</li> <li>奨励金の単価を上げてほしい。訓練中に訓練生が資格等に合格した場合は、追加の奨励金が上乗せされるような仕組みを検討してほしい。</li> <li>配慮を必要とする方が増えていくと予想されるため、受け入れた実施機関への委託料等の配慮があるとよい。</li> <li>福井県にはweb制作会社が少なく就職先が少ない一方、企業内でのweb制作担当者に係る求人は多くある。訓練ニーズはあると思われる。</li> <li>IT業界は経験実績のある方を募集する傾向が強い。訓練生は経験がないため就職活動に苦慮。企業の受皿が増えるとうい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>HTMLやCSSといったウェブ制作に関する基礎知識が就職後に役に立った。</li> <li>関数、マクロ、Word・Excel等の基本操作が役立った。</li> <li>訓練内容のうち、就職後あまり活用されなかったものは特になかった、強いて言うなら時間配分。</li> <li>実務に役立つ内容で学びたい。</li> <li>就職後に感じたこと、もっと時間をかけて学びたかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>web制作に関する基礎知識、基礎から教える時間が少なく非常に助かっている。</li> <li>関数、マクロ、Word・Excel等の基礎知識が役に立っている。</li> <li>各種ソフトやツールの使い方、サーバー・ファイル構造・データアップを訓練で習得するとより一層望ましい。</li> <li>訓練習得について、特になく、十分すぎる。</li> <li>未受講者に比べると用語やフローがわかかっていて即戦力に近づくことを期待している。</li> <li>訓練を受けていない方と比べ、スキルが高いことや厳しい訓練を通ってきた胆力を期待している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練生のスキルアップやモチベーションUP、企業ニーズの把握に努め、カリキュラムを見直していく。</li> <li>基本奨励金の特例措置(webデザイン)等を案内していく。</li> <li>効果的な就職支援のため、ハローワークとの連携強化が有効。</li> <li>訓練期間、訓練カリキュラムを検討していく。</li> <li>デジタル訓練の設定数、定員数を検討。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
19	山梨	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの人がHW職員から勧められて受講の申し込みを行っている。チラシはHW職員に訓練内容を理解してもらうツールと作成している。</li> <li>訓練生のモチベーションを維持するため、訓練期間が始まってすぐにチームビルディングを行うことによって訓練生同士がコミュニケーションを取りやすい環境を作る、自己紹介の時間を多く取る。</li> <li>入学してすぐに1回目のキャリアコンサルティングを行い、各訓練生の特性の把握、就職についての意見聴取をすることで、今後のキャリアコンサルティングの方向性を決めていく。</li> <li>職業人講話に協力していただいている企業に職場見学等を依頼し、実際にエンジニアの現場を訓練生にみてもらい、就活の参考に役立ててもらっている。</li> <li>人件費、光熱費が高騰する中、訓練基本奨励金の変動がなく円滑な運営をするのに影響が出ている状況にあり、今後の支援策の一貫として奨励金の引き上げを要望する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①訓練効果が期待できる内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミング基礎全般が役立った。</li> <li>プレゼン、職業人講話(注:訓練科目に関連する業界の方が、業界の状況や必要なスキル等を講義する)が役に立った。</li> <li>総務など事務の基礎知識が役に立った。</li> <li>エクセル・ワードの操作方法が役に立った。</li> <li>タイピングが早くなった。</li> </ul> </li> <li>②訓練効果を上げるために改善すべき内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>データベース系の知識をもっと学んでおくべきであった。</li> <li>就職支援の時間をもう少し増やして欲しかった。</li> <li>ワード・エクセル以外にショートカットキーなどの効率的な使い方を学びたかった。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①訓練効果が期待できる内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム言語の基礎知識(C/C++)データベースの基本が役に立っている。</li> <li>エクセル・ワードなどパソコンの基礎知識。専門のシステムを使用するが、パソコンの基礎知識があると、システム操作もスムーズにできる。</li> <li>オンラインでの商談も多いので、パソコンの知識があると役立つ。</li> <li>社会保険、入社退社などの人事の手続きについてのスキルが非常に役立っている。</li> </ul> </li> <li>②訓練効果を上げるために改善すべき内容                     <ul style="list-style-type: none"> <li>データベースの知識不足で躓くことが多いのでデータベースの知識は更に多い方が良い。</li> <li>ローコードのスキル。実務で使う事が多い。</li> <li>ジャバスクリプト(ローコードに適しているため)。</li> <li>接客対応、電話対応などの対人スキル。当社は接客的要素も強い。</li> <li>コミュニケーションスキル(事務職でも必要のため)。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採用企業からは、パソコンスキルにプラスアルファとして、コミュニケーションスキルを求める傾向がある。実施機関への説明会や訪問時に上記を伝え、コミュニケーションスキルの向上に時間をかけることにより、就職可能性が高まる可能性があることを周知していく。</li> <li>訓練修了者を採用する企業は中小企業が多いため、PCスキルに加えて、簿記や人事関係スキルも身に付けることができるコースを、引き続き設定していく。</li> <li>ローコードのスキルなど、採用企業からのニーズを実施機関に伝える。ただし、科目を加えると、他の科目の時間を削る必要があり、体系的な学習に支障が出る可能性があることに留意する。</li> <li>プログラマーやSEは人材ニーズが多く、採用企業からも人手が足りないとの話があった。職業訓練への期待が大きいことから、デジタル分野の訓練コースの定員増を図っていく。</li> <li>就職支援の時間を増やして欲しいニーズには、基礎コース設定で対応する。</li> </ul>
20	長野	製造分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的なカリキュラムのみでは、未経験者は敬遠して受講生が集まらない。製造業の経験がない者も応募しやすいように、CADだけではなくパソコン操作や品質管理を組み入れたカリキュラムにするなどの工夫をしている。結果として、以前のような「経験者がスキルアップのために受講」というニーズには応えきれなくなっている面もある。</li> <li>製造分野訓練は、施設整備含めパソコン訓練などに比べて経費が掛かるので、訓練実施機関に対する助成は、かかる費用に応じて設定してほしい。</li> <li>受講生には就職に前向きでない者も一定数おり、そのような者は訓練が修了してから急に就職に意欲的になるということは少ないので、訓練期間中から段階的に就職を意識するように就職支援に係るカリキュラムにも工夫を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際現場に出てみると学び足りなかったと感じる部分は多い。一方で、受講したことが未経験職種に飛び込む上で、大きな自信(弾み)になった。</li> <li>今までと全く違う未経験の製造職種の求人に応募する際でも、訓練校の先生に情報とアドバイスをたくさん頂き、その上で社風や働きやすい環境かどうか等により、自身で応募先を選択することができた。</li> <li>これだけの内容を、無料で受講できたことは本当に助かった。ハローワークの窓口で教えてもらい初めて制度を知ったが、もっと職業訓練制度自体を幅広く周知した方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>即戦力にはならないが、求人へ直接応募してくる方と訓練受講修了生とは面接に臨む姿勢が違っていると感じる。また、採用後教育する際に、機器の名前など専門用語を知っているだけでも教えやすい。</li> <li>人手不足感が強い景況下、「製造分野の訓練課程を修了」したうえで「製造職を希望」していること自体が、求人事業所から見ると大きなアピールポイントとなっている。</li> <li>入社後に技術専門校の品質管理の在職者訓練に勉強に行ってもらっている。意欲のある人には、どんどん外部研修に出しているの、在職者対象の訓練も実施する機関や内容の充実を望みます</li> <li>入社後は、専門知識だけでなく日常コミュニケーション能力が重要。訓練校で幅広い年代の仲間と未経験の内容を学んできた経験は、入社後新人として周りの従業員に支えられながら仕事を覚えていく上で、生きていけると感じることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造分野訓練の高い就職率等を踏まえ「再就職に強い職業訓練！」と言う面を、受講生募集の際に修了後の就職状況PRを強化する等工夫を図る。</li> <li>一定レベル以上のものづくり訓練に係る委託費等の上乗せを国に要望していく。</li> <li>訓練を受講している期間は、受講生にとって受講職種(未経験職種)に飛び込む準備(弾み)を整える時間にもなっていることから、訓練受講中においてもハローワークは訓練実施機関と連携し企業面接会開催など就職支援の取組みを図る。</li> <li>事業所は、在職者のスキルアップのために外部機関等を利用した専門的(オーダーメイド)な研修の実施希望があるので、把握した就職訓練に係る事業所ニーズを訓練実施機関にフィードバックしていく。</li> </ul>
21	岐阜	製造分野(CADコース)	<ul style="list-style-type: none"> <li>CADやCADの面白さを分かってもらうための広報動画作成や見学会、体験会を開催している。</li> <li>CADは「モノづくりリテラシー」であるとの考えから、キャリア形成に役立つ一生もののスキルであることを教示している。</li> <li>奨励金や委託費等訓練費用の見直しをお願いしたい。</li> <li>訓練カリキュラム改良視点についての質問に対し、ニーズの高い表計算ソフト(officeソフト)やWeb、DX等との併用との意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作図、製図の基礎や機械設計の基礎を学んだことは仕事を進めるうえで役に立った。</li> <li>訓練時と就職先でのCADソフトが違ったが、操作について似ているところも多く応用が効いた。</li> <li>3DCADの操作理論が学べるとよかった。</li> <li>図面を描くための基礎知識や現場で使う材料や形状の理(ことわり)が学べるとよかった。</li> <li>訓練カリキュラムへの意見では、「まったくCADを触ったことがなくてもできる訓練であった」等の意見があった。</li> <li>後に続く受講者に伝えたいことの質問には、「物を作る仕事をしたいという気持ちがあれば、CAD技能を学べる環境として職業訓練の受講は良い選択」や「他業種から製造業への転職である場合、CADの知識・技能のほか、機械加工や金属加工も併せて学ぶことを勧めたい」との意見があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図面作成に必要な基本知識が習得されている。</li> <li>製図、CADの初期研修が済んでいるので、スムーズな実務移行能力が備わっている。</li> <li>ビジネススキルが備わっているため、職場への導入が効果的。</li> <li>空間認識能力や公差の考え方の習得を強化してほしい。</li> <li>部品図の作成時に加工のイメージを持っていれば解りやすい図面の向きや寸法の入れ方が身につくと思う。</li> <li>未受講者と比較して、いち早く設計、製図トレースの能力が即戦力レベルに達することを期待。</li> <li>訓練受講により一定期間耐えてきた経験から、未受講者と比べて高い定着性が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造分野の訓練コースの受講者を増やすため、製造分野への期待や好感が持てる訓練カリキュラムを提供できるよう、求職者ニーズの高いカリキュラムとの併用やCADの魅力伝える広報が重要。</li> <li>改善の方向性として、図面の知識を有することは、製造分野においては「モノづくりリテラシー」とも呼べるような基本的な職能であることに着目し、CAD技能を習得する機会に併せてパソコン技能やDX等を学ぶことで、様々な製造現場で役立つ汎用性の高い技能・知識が習得できるカリキュラムとすることが必要。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
22	静岡	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と演習問題を繰り返し行い、自宅学習を促すため宿題を出し、提出物と授業中に講師が巡回し理解度を把握しフォローしている。</li> <li>・ワード・エクセルは初級も中・上級もそれぞれに需要があるため、基本のワード・エクセルに加えパワーポイントで企画書が作成できるなど付加価値を付け、WebデザインやSNS動画クリエイター基礎などを付加したカリキュラムにしている。</li> <li>・クラウド管理と利用に関する企業ニーズがあるものを目指す資格がないため求職者支援訓練ではコースが組めないが、ワード・エクセルをメインにクラウド管理と利用を付加したカリキュラムが良いと考える。</li> <li>・講義は講師1名、実技は2名体制、個別対応が必要な受講生がいればもう1名配置し、真ん中のレベルに合わせ授業を進めている。メンタル面に問題を抱える受講生の対応に苦慮している。</li> <li>・キャリアコンサルティングは1か月に1回設定し、1回目は受講生との関係づくり、2回目は習得度及び今後のスキルの方向性について確認、3回目は企業への応募状況の確認をしている。2回目以降は必ず求人票を持参することを宿題にしている。</li> <li>・ハローワークにて訓練受講希望者が参加する訓練説明会を開催したい。</li> <li>・選考時の短時間で就職意欲を見極めることは困難。</li> <li>・就職支援経費について、現在の減額方式では、就職率が1%でも基準に満たないと大幅に減額されるため、加算方式にできないか。</li> <li>・基礎コースの受講生が集まりにくい。基礎は少人数の方が進めやすいが基礎コースを増加する場合の奨励金について検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パート経験しかなかったが、正社員の事務職を希望し自宅近くで探し、訓練校で学んだパソコンのスキルを活かせる企業に就職出来た。</li> <li>・Webデザイン・アクセスは仕事で使用していないが、エクセル・ワードは役立っておりエクセルのスキルをもう少し高めたい。</li> <li>・就職面接の練習があると心強い。</li> <li>・社会人になってから、資格を新たに取得するために「勉強に取り組む」という事が出来ていなかったため、今回働きながらでも少しづつ「学んで」スキルアップしていくことが大切であると感じ、「勉強」のやり方を思い出した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簿記の知識とエクセル・ワードのパソコン操作も含め、すべて役に立っているが、4か月間遠方まで通学した前向きな姿勢と、電話や面接時の明るい対応に好感を持ち採用を決めた。</li> <li>・職業訓練修了者であることを知らずに採用した。</li> <li>・公的職業訓練によりスキルを身に付けた人材が応募していることを知らない事業主も多い。事業主に対しても制度の広報に力を入れれば求人が増え、就職の可能性が高まるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワードやエクセルに加えて、パワポやクラウド管理等のプラス要素の習得は、就職可能性にも影響。</li> <li>・「資格取得」は、一定以上の訓練期間が必要で一方、企業側の求人ニーズを十分に精査して設定する必要。</li> <li>・訓練実施時期、募集期間等が重複しないよう運用する必要。</li> <li>・就職意欲の低い受講生等への指導等は課題なので、訓練の意義や重要性について受講生に事前に理解させる必要があり、訓練実施機関による説明会やハローワークとの連携は有効。</li> </ul>
23	愛知	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委託訓練、求職者支援訓練とも、訓練対象者の違いから目指すスキルやカリキュラムの内容、時間配分等を考慮し設定している。</li> <li>・Web会議ツールを活用したカリキュラムやキャリアコンサルティングを実施していることが、オンライン面接の場面、就職後のオンライン会議等の役に立つ。</li> <li>・訓練実施時期については年度末、始めなどの労働市場の動きに連動した就職活動時期等も考慮している。</li> <li>・キャリアカウンセリングは、担当者制にして相談内容をデータ管理することで、個人情報管理の強化を図っている。また、相談時間が制約されることから、講師も含め普段からの受講態度や出欠状況に気配りし、孤立者が出ないようにしている。</li> <li>・昨今の物価上昇に伴い運営や設備投資にかかる経費が増大しているため、委託費、奨励金等の引き上げなどの見直しについて検討してほしい。</li> <li>・委託先募集時の審査基準にある「県内において加点対象となる社会的価値の実現に資する取り組み」について、実施機関本社が他府県にある場合に支部単位で対応することは難しい。この項目の加点割合が高いと感じるので、訓練生の満足度や受講に関する声など訓練内容を評価する項目の加点割合を高くてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練コース選定時点で、訓練修了後の自身の就職イメージができており、その目標を持って訓練を受講している。</li> <li>・ビジネスPC演習は「Excel演習」の比率を多くすること、簿記演習は「簿記知識」や「会計ソフト演習」を充実することが求められる傾向があった。</li> <li>・Word実習、Webメール実習などは就職後に活用頻度が少ないことや既にこれまでの社会人経験で身につけているのであまり必要と感じなかった。</li> <li>・キャリアコンサルティングについては、自身の振り返り、方向性の確認及びモチベーションの維持に役立ち、有効との声が多かった。その一方で、相談時間の弾力的対応、担当キャリアコンサルタントとの継続的相談が望まれる傾向があった。</li> <li>・訓練カリキュラムについて、会計制度の改正等に対応する等、社会情勢を意識した内容が望まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用性の高い会計ソフトの演習をしておく実務に役立つ。</li> <li>・職場実習で作業をしてもらうと、スキルのほかコミュニケーション力もわかるので、採用の際に判断しやすくなる。</li> <li>・会計実務を行うには「簿記」について理解していることが望ましい。会計事務などで専門的に作業するには引き続き「日商簿記2級」を取得している(あるいは同程度の知識を取得している)が良い。</li> <li>・AI化が進んだ先に何ができるかを見据え、新たなサービス等、付加価値の提案ができることが必要。また、会計実務においてAI化が進むことにより、今後、Zoom等のチャットツールで折衝することが増え、これまで、対面のコミュニケーション力カバーできた知識不足が通用しなくなることもあるので、しっかりと積極的に知識を習得する意識が必要。</li> <li>・「インボイス制度」や「電子帳簿保存法」の対応は訓練修了生が、就職後すぐに理解して作業できるとは思わないが、制度の内容についてしっかりアンテナを張って勉強することにより、この業界の動向をわかっていることが必要。</li> <li>・基礎知識だけでなく、人とうまくやっていける能力、忍耐力、体力が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記を踏まえ、カリキュラムの改善を図る。</li> <li>・訓練期間はどこまでの仕上がりを目指すかにより3か月、6か月と判断が分かれる。</li> <li>・訓練実施時期は、企業の採用意欲の高い年度末、年度初め、年度半期(9月末)に終了を合わせると就職しやすくなる。</li> <li>・採用後に役立つことから、簿記、会計ソフト実習や職場実習が有効。</li> <li>・PCスキルはExcel演習の時間比重を多くし、しっかり習得していると就職後に役立つ。また、Web会議ツールなどをカリキュラムに取り入れるのであれば、セキュリティに係る内容が盛り込まれるとよい。</li> <li>・「インボイス制度」などの社会ニーズを取入れたカリキュラムや生成AIの取扱い、Web会議ツールなどの利用を見据えたカリキュラムが必要。</li> <li>・年末調整や確定申告など会計業務に係る年間の流れを学べると業務のイメージがしやすい。</li> <li>・キャリアコンサルティングは相談時間の弾力的な対応や担当カウンセラーの継続的相談が望まれる。</li> <li>・訓練期間中は、授業終了後に管轄ハローワークに向かい相談をするのは難しいのでWeb相談ができるとよい。</li> <li>・訓練実施機関が訓練認定を受ける要件や、委託費・奨励金の支給金額などについて、昨今の経済事情を反映した内容となるように検討してほしい。</li> </ul>
		デジタル分野(委託訓練のみ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業のプログラミング研修に比べ進捗は少しゆっくりだが内容を濃いものにしていく。</li> <li>・プログラミングなどの実技の演習期間を長めに確保し、知識の定着を図り、2年間の専門学校卒業と同レベルまで近づけるようにしている。</li> <li>・時代に合ったカリキュラム変更が必要と考え、年一回経営層を入れた会議を実施し見直しを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生の意識やレベルの差に開きがあり、習得すべきカリキュラムが多いと授業の進捗に影響が出てしまう。</li> <li>・専門的な知識を問われる業務に就職するため、最近使用されているツールなどの実践的なカリキュラムが望まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムを「書ける」「読める」「説明できる」ことが望まれる。</li> <li>・システム開発はチームで行うのでオブジェクト指向、「報・連・相」のコミュニケーション力も必要。</li> <li>・ローコードツールによる開発が増え、プログラム開発の自動化が進んでいるが、活用するためにソースコードを「読める」「説明できる」ことが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下記を踏まえ、カリキュラムの改善を図る。</li> <li>・アルゴリズムを含む基礎能力が必要であると同時に、最近使用されているツールについての知識も必要。</li> <li>・システム設計における「実装・テスト」業務は自動化が進んでいることから、「設計・管理」業務の比重が増加しているため、「実装・テスト」から「設計・管理」までできる人材が求められている。</li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
24	三重	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講生によって習得速度に差が出るので、取り残されたりしないように個々に寄り添ってカリキュラムを進めている。</li> <li>作成すべき書類が多く、受講生の負担にもなっている。</li> <li>書類提出をオンライン上でできれば、事務作業時間の短縮にもなり、受講生の対応に時間を充てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンの基本操作が習得できたため、特に苦もなく事務作業に従事できている。フライングタッチができるようになったことが大きい。</li> <li>実際の業務では専用のソフトを使用しているため、訓練校で身につけたスキルをそのままでは使わないことがある。</li> <li>Excelを使う作業があるため、基本操作以上のこと(よく使用される関数や作業の効率化に必要なマクロ等)を学べたらよかった。</li> <li>就職後すぐに取引先とやり取りをする機会も多かったため、訓練中にビジネス文書やビジネスメールの書き方や注意点、定型文等を学べたら、即戦力としてより活躍できるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンの基本を理解されており、事務処理がスムーズで、戦力として非常に助かっている。</li> <li>キャリアコンサルティングを通じて自身の能力評価ができており、向上心がうかがえる。</li> <li>ビジネス文書やメールの書き方、ビジネスマナーの知識を習得しているありがたい。人に対するマナーなどの知識は必要。</li> <li>就職先によって使用するソフトは様々であり、それらの知識があるに越したことはないが、訓練中にあらゆるソフトについて学習することは時間的にも厳しいと思われるので、就職後に訓練では使わなかった他の専用ソフトでも対応可能な応用力が身につく訓練カリキュラムを期待したい。</li> <li>就職に意欲のあることが大事な要素であり、スキルの習得のためだけに訓練を受講するのではなく、就職の意欲を持った人材を採用したい。</li> <li>訓練修了者の情報を提供してもらえれば、採用を検討しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>客観的視点での事例検討等を通じて、ビジネススキルを向上させるためのカリキュラムを充実させる。</li> <li>具体的な業務を想定した実践的な訓練内容をカリキュラムに盛り込む。演習等で使用するソフトに対応可能な応用力を習得できるように訓練内容を充実させる。</li> <li>訓練初期段階から採用されやすい人材を主体的に意識できるようキャリアコンサルティングを通じた就職支援を行う。</li> <li>ハローワークや職業紹介機関の周知を推進し、訓練修了者・求人者がお互いの情報を得られる機会が増えることで採用の可能性を広げる。</li> </ul>
25	滋賀	IT分野	<p>教科書通りの演習だけでなく、応用課題への取り組みにより業務スキルの習得を目指している。</p> <p>特にプログラミング科目では、設計図制作からコーディング、作品制作・発表、講師の講評、修正まで行い、完成した作品はポートフォリオとして就職活動で使用できるよう訓練効果の向上に取り組んでいる。</p> <p>訓練コースにテレワーク可能な「zoom」演習を実施。</p> <p>昨今の国内外における物価の急騰に伴い、求職者支援訓練の実施奨励金の増額や委託訓練の委託料の見直しを要望。受講生の方の就職に対するニーズは多様であるため、雇用保険適用就職率の撤廃を要望。</p> <p>【訓練カリキュラムにおいて就職に資するものとして最重点にしていること】Pythonは少ないコードで簡潔にプログラムを書け、専門的なライブラリが豊富にあることや、初心者でも学びやすく、汎用性も将来性も高いプログラミング言語であるため、Pythonプログラミング演習を重視している。</p> <p>実際に就職活動でポートフォリオとして活用するプログラム作品を訓練期間中に講師の指導の下に自分で制作、クラス発表、講師の講評を受け、修正を行い、完成を目指している。</p> <p>Javaは環境に依存しない汎用性が高く、マルチな言語で多くの基盤システムに使用されており、仕事に直結しやすい言語であるためJavaプログラミング言語を重視している。</p> <p>OA事務応用科に相応しい難易度の高い資格取得を目指し、応用から演習までのカリキュラムをブラッシュアップし、企業研修で得られた事務現場での問題、課題を題材とした実践演習を加えている。</p> <p>【募集において工夫していることについて】</p> <p>ハローワークの担当者が訓練受講を検討している方に説明し易いように訓練コースの特徴や取得目標資格等をまとめたHW用資料の作成といった工夫を行っている。</p> <p>事前説明会を開催し、応募前に訓練内容等の理解を深め、応募時点でのミスマッチを防ぐよう取り組んでいる。</p>	<p>訓練ではプログラミングの基礎を学んだため、仕事で使うプログラミング言語が使いやすかった。</p> <p>コンピュータ概論は業務基礎となるため、役に立った。</p> <p>Web作成の科目を学んだことでホームページの更新作業で役に立った。</p> <p>技術的な部分ではあるが、企業が採用していないプログラミング言語だと役に立たなかったと感じた。</p> <p>実践形式がなかった科目については、仕事では役に立っていない。</p> <p>設計の授業やコミュニケーションについて訓練で学べたら良かった。</p> <p>グループ開発といった実際の業務を想定した課題演習があると良かった。</p> <p>Teams等の仕事で使用するアプリの使用方法等が学べると良かった。</p> <p>Web作成の応用まで訓練で習得できると良かった。</p>	<p>エンジニアとして必要な知識を持っているため、ある程度評価している。(設備設計、工程管理)</p> <p>訓練で幅広いスキルを所持していると感じたため、ある程度評価している。(製造)</p> <p>プログラムを勉強したいという強い意志を感じたため、高く評価している。(システム開発)</p> <p>未経験ながら意欲があり、かつ直近で訓練を受け、資格を取得していることをある程度評価している。</p> <p>フロントエンド開発(ユーザーが目に見える操作する部分)の知識が習得しておけると良い。</p> <p>モダンアプリケーション開発(スピーディな開発)手法の習得ができると良い。</p> <p>PLC(制御装置)のスキルを習得しておくことが望ましい。</p> <p>訓練の決まった内容ばかり教育するのではなく、実際に問題や課題を解決できるスキルを身につけてもらいたい。</p> <p>【訓練修了者を採用する場合に期待すること】</p> <p>訓練で幅広い内容を学んだスキルを所持していること。</p> <p>訓練修了者にはスキルを応用する能力に期待している。</p> <p>基礎的なスキルが身に付いていることに加えてWeb作成ができること。</p> <p>知識や実務経験を評価できない分、モチベーションに期待する。</p> <p>仕事に対する姿勢を学んでほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練カリキュラムの改善という方法ではなく、あっせん・相談を行っている公共職業安定所の窓口職員が適切な受講あっせんを行うために、窓口職員がIT分野の訓練の内容やコミュニケーション能力が求められる(チーム作業)ことを理解することや訓練受講希望者への訓練説明会での具体的な仕上がり像の説明をする。</li> <li>訓練修了者や採用企業から各訓練カリキュラムを評価してもらったが、それをもって訓練カリキュラムを変更すべきと判断するには、今回のヒアリングした意見の中で、カリキュラムの改善に繋がる特筆した意見はなかったため困難。</li> <li>ヒアリングした結果を各訓練実施機関へフィードバックすることによって訓練実施機関の自主的なカリキュラムの改善を促すことや訓練周知方法の改善を促す。</li> <li>訓練実施機関から人件費の高騰や社会情勢を踏まえ、委託費や奨励金の増額(単価の引き上げ)を要望しているが、厚生労働省で定めており、滋賀県地域職業能力開発促進協議会にて対応できるものではないため、厚生労働省へ意見を提出する。また、今後要望がある場合は、令和5年5月から厚生労働省のHPに訓練実施機関向けのご意見・ご要望フォームが開設されているためそちらを案内する。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
26	京都	IT分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練カリキュラムを作成する際に、企業及び訓練生のニーズを把握し、訓練修了後の就職につながるよう工夫している。企業からは、ホームページの更新やSNSをうまく使える人材を求める声が多かったため、Webサイトを作る事に特化したカリキュラムとしている。結果として、若い訓練生も多く、Web系職種への就職も多かった。(例：事務+HP更新作業、オンラインショップ商品出品等)</li> <li>「求められる企業ニーズ、受講者ニーズに対応できる魅力ある職業訓練」とするため、実務に即した書類やデータ処理ができる・視覚的にも理解できるプログラミングを取り入れる・業務効率化ができる・習得したスキルのアピール力を高めるといった工夫をしている。</li> <li>訓練運営については、初日に職業訓練の趣旨を説明。訓練生同士お互いに尊重しあうようお願いし、訓練において気になることがあれば早めに相談するよう伝えている。受講者には訓練の達成感を持って修了、仕事に就いていただけたよう努めている。</li> <li>自社内にキャリアコンサルタントを配置し、月1回のキャリアコンサルティングを実施。キャリアコンサルティング時以外でも常時相談対応、面接練習、応募書類の添削、作文の添削等をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何も分からないところから、実際にコードを書いたりする機会や教えてもらえる機会をもらえた。</li> <li>現在、ECショップの仕事をしているので、関連することが多く多い。</li> <li>ヒューマンスキル研修は、コミュニケーションをはかるには活用できた。</li> <li>中期経営計画の中で個人の目標設定をする必要があった際、ITパスポートの授業で習った事が役に立った。</li> <li>店舗でのPOP作成など、すぐに任せてもらえるようになった。</li> <li>Javaなどは大企業及びその下請けで採用されるもので、オープンなフロントエンド開発では使われない。</li> <li>UI/UXといった画面インターフェイスの基礎知識や技術の習得について学んでおくべきだった。</li> <li>スクラッチプログラミング、Web会議演習、PowerPointについて、実際に仕事で活用することがほとんど無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、業務系システムの開発、運用、保守を行っており、言語はJavaなので、大変役に立っている。その他の訓練科目は、ITの基礎知識などに役立っている。</li> <li>HTMLやCSSは案件数としては、かなり数が少ないため、これだけをやった実際のIT現場で活躍できた人はほとんどいない。(当社だけではなく、他社様も含めて。)</li> <li>現場は経験者を常に募集しているが、現状、当事業所がある地域(市場)では、経験者の動きは活発ではないため、未経験者層でも訓練校やスクールでしっかりとC言語、Java、C#などでコーディングをされてきた方は優遇される場合が多い。</li> <li>UI/UXといった画面インターフェイスなどの使い勝手、デザイン面の基礎知識や、ドキュメント作成などの技術があればなお良いかと思う。</li> <li>C言語、JavaやC#などのコーディングの実践回数を多くして、基本的なオブジェクト指向の理解を高めていただけると幸い。</li> <li>ヒューマンスキルは比較的若い年齢層の職場に就業しており、職場でのコミュニケーションの取り方や仕事上の立ち居振る舞い等に活かされている。</li> <li>労働基準法の基礎的な知識も取得してほしい。</li> </ul>	<p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訓練内容に①基本設計の知識…方式設計(ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク)、業務システム設計、インターフェース設計</li> <li>②基本設計演習…要求定義に基づくシステム構成の検討、業務システムの設計</li> <li>インターフェースの設計(小グループ演習)の2科目を追加</li> <li>論理的思考、プログラミング的思考を養う訓練として有意義なスクラッチプログラミングのみでなく、他の実用的なプログラミング言語のカリキュラムも併せて設定</li> <li>jQuery・Javascript活用のカリキュラムについて、修了者評価が低いが、Web系職種で働くにあたっては、知識を持っていることは有用であるため、訓練の意義や訓練内容が現場でどのように活用されているか等、訓練の中でしっかりと説明する。</li> </ul> <p>【改善策の促進方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援訓練認定申請の実施機関の相談時において改善提案を行う。</li> <li>委託訓練公募条件または入札の加点要素として付加。</li> <li>委託訓練公募の説明会資料に追加して周知する等</li> </ul>
27	大阪	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練生が理想の将来像を考えられるよう、経験豊富なキャリアコンサルタントから就職意識の向上をサポートしている。</li> <li>訓練生の様子を常に観察し、積極的にこちらから声掛けを行い、必要があればいつでも相談を受け付けるよう心掛けている。</li> <li>関連企業に就職するために、当事者にとってどの部分を重点的に学習する必要があるか指導している。</li> <li>訓練期間の早い段階から、就職を意識できるように、就職面接を行っている。</li> <li>キャリアコンサルティングにおいては、面接指導、業界・業種の絞り込みにより就職活動を促している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソフトの基礎操作や基礎知識は現場では丁寧に教えてもらえないので、最初から学べて役に立った。</li> <li>就職先によって必要なスキルは変わるので、基礎を押さえているカリキュラムで良かったと思った。</li> <li>実制作でプログラミングからプレゼン、制作まで作成したので、その経験を活かすことができた。</li> <li>就職後に基礎知識があったので話についていけた。</li> <li>言語や開発について基礎から学べる充実した内容だった。</li> <li>自分が働く上で大事にしていることを再度確認出来てよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練により下地があったため、当社の研修で劣せず先の研修ができていた。</li> <li>訓練で社会(IT業界)の実情や厳しさを教わっていたため、既に心構えができていた。</li> <li>java silver取得で知識を習得しており、採用後に役に立っている。</li> <li>組織で働けるヒューマンスキル(人と接することに抵抗がないこと)、仕事に対する意欲、チャレンジ精神に期待する。</li> <li>訓練により習得したプログラミングの基礎知識、プログラミングが好きかどうか、IT業界で仕事をしていきたいという意欲に期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練により基礎的な知識・技能の習得、ITスキルアップへのモチベーションやチームスキルの向上、社会人としての基本的スキルやIT業界知識を学べる機会を提供が期待できる。</li> <li>急速に発展するIT技術に対応するため、上記を踏まえたカリキュラムのブラッシュアップを継続していくことが必要であり、新たに公的職業訓練を実施する訓練実施機関や、就職率が芳しくない訓練実施機関に対し、機会を捉え上記訓練効果が期待できる内容を周知することにより、デジタル分野の訓練コース全体の訓練効果を向上させるよう取り組んでいく。</li> </ul>
28	兵庫	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者募集にあたっては、積極的に説明会や訓練を体験できるセミナー等に取り組んでいる。ネットやSNS等を使って広く周知できるようにしている。</li> <li>訓練期間中は教室の雰囲気作りや、職業訓練のゴールは就職といったキャリアコンサルティングを通じた意識付けを行うなど訓練効果が上がるよう取り組んでいる。</li> <li>デジタル分野の訓練においては、IT・Webデザイン業界では就職後に求められるスキルは企業毎で差異があるため、現場の業務を早急に理解し、実践できるようにするための礎を身につける基礎的なスキルの習得に重点を置いている。</li> <li>Webデザインにおいては、就職試験で、特にポートフォリオが重要視される為、質の高い作品を作成する訓練内容に重点を置いている。</li> <li>コロナ禍以降、訓練受講者の減少が著しいため、制度の周知、あっせんを強化していただきたい。</li> <li>ハローワーク職員と訓練実施機関との勉強会のような場を設けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練で学んだ内容を活かして、未経験の職種に就職できた。</li> <li>「Photoshop」の使い方を具体的に知ることができた。</li> <li>プログラミングの基礎を学べたことで、論理的思考ができるようになったり、他の言語を学ぶ上で役に立った。</li> <li>仕事の理解度が高まり、職場での打ち合わせ時等、自信をもって業務が行えるようになった。</li> <li>授業が想像以上に難しい内容だったが、講師が、個人の進捗具合に合わせる等配慮し、丁寧に教えてくれた。</li> <li>職業人講話・業界セミナー等、実際にデジタル系の職種で求人募集を出している企業から、業界の実情に即した生の説明を聞くことができ、たいへん参考になった。</li> <li>業界内での細分化された職種やキャリアアップの説明等のキャリアカウンセリングが、就職へのモチベーションの維持につながった。</li> <li>カリキュラムにおいて、訓練の後半は実制作の作業に取られる時間が多く、もっと仕事に役立つ講義を受けたかった。</li> <li>訓練の期間が短く、もっと習得すべきものがあった。</li> <li>実務では訓練で学んだ内容よりも、より応用レベルのスキル・知識が求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラミングに関する知識やIllustrator、Photoshopを使用しているホームページ、商品案内の作成が業務に役立っている。</li> <li>Webではないが、デザイン業務に従事しているため、デザイン関係の訓練内容が仕事に活かされていると思われる。</li> <li>デジタル系の職業訓練では、言語(JAVA)を使ったプログラム実習などを売りにしているが、そのようなカリキュラムばかりなのはあまり意味がないように感じる。むしろ言語の成り立ちや概念など基礎的な部分をしっかりと学び、自分で論理的に物事を考えられるスキルを養成できるようなカリキュラムがよい。</li> <li>今回採用したようなデザイン関係のスキルの他、工場現場などにおける、生産性向上、工程管理、業務改善に取り組める人材を育成する訓練があると良い。</li> <li>公的な資格等が取得できるような訓練や未経験者でも、実務に対応できるスキルを身につける訓練が望ましい。</li> <li>訓練受講者には、業界に対する関心や仕事に対する意欲・モチベーションの高さ、基礎的なスキルが身につけていることによる、入社後のスキルアップに期待する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>急速に発展する社会、経済のデジタル化に柔軟に対応していくため、限られた訓練期間で「即戦力」レベルは困難であっても、応用力のアップにつながる基礎的な知識・技能の習得により、未経験でも、企業での活躍の可能性を感じさせる人材を育成するといった視点に立った訓練内容の設定を検討していくことが必要である。</li> <li>キャリアコンサルティングやキャリア教育等の就職支援において、訓練分野に係る業界の特徴等を考慮に入れた支援を実施することは、受講者のモチベーションの維持や就職意識の向上につながるため、受講者のニーズを踏まえた取組を検討していくことが必要。</li> <li>講師による丁寧な指導は、訓練受講の満足度を高めるが、一方で、講義の進め方やカリキュラム内容、使用する機器等に不満を覚えた修了者もいたことから、指導技法の向上や訓練環境の改善等も検討していくことが必要である。</li> <li>新たに公的職業訓練を実施する訓練実施機関や就職率が低調な訓練実施機関に対し、機会を捉え上記訓練効果が期待できる内容等の周知に取り組む。</li> <li>受講者の確保、就職率の向上については、ハローワーク職員による訓練施設見学会等の拡充や企業の人材ニーズの把握に努め、求職者への受講勧奨の強化や的確な受講あっせん、就職支援により、デジタル分野の訓練効果を向上させるよう取り組む。</li> </ul>

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の 概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見	
29	奈良	デザイン分野	<p>(1) 講師は現役のデザイナーに依頼しており、就職に役立つカリキュラムとなるため、日々、カリキュラムを実践的な内容に変更している。</p> <p>訓練の最終月は、ポートフォリオを作成してもらい、応募や面接でも説得力が出るので活用している。また、ポートフォリオをインターネットでも閲覧できるようにしている。</p> <p>(2) 定期的にキャリアコンサルティングを実施。デザインのみで仕事を探さず、HPや広報事務、ネットショップ等に視野を広げていくように説明している。</p> <p>(3) 実践コースでも、基礎コースと同様に就職準備訓練の3OHをカリキュラムに組み入れてほしい。</p>	<p>(1) イラストレーターやフォトショップの操作方法やHTML、CSSなどの勉強及びポートフォリオの作成は、現在の仕事に役立っている。</p> <p>・定期的なキャリアコンサルティングはよかった。勉強に傾きがちになる時に、再就職のことも考えられるいい時間になった。</p> <p>・きちんと教えてもらったことがなかったため、接遇研修は役に立った。</p> <p>(3) デザインの基礎は勉強できたが、デザイン力が向上できる勉強をもう少ししたかった。</p>	<p>(1) HP等を学んでいる点。ポートフォリオの作成。</p> <p>(2) ワードプレスの時間を増やしてほしい。また、セキュリティーやコンプライアンス等の受講もしてほしい。</p> <p>・感性を磨くため、色々な雑誌や写真などを見てほしい。</p> <p>・イメージを具現化する仕事。自分でSNS等を挙げて読者の反応などを見てほしい。</p> <p>(3) 労働市場的に経験者が少ない地域だが、未経験者を雇用して育てる余裕はないため、当社の求めるスキルがある訓練修了生は助かる。</p>	<p>・訓練カリキュラムに、より実践的な内容を加えていく必要がある。</p> <p>・訓練実施機関とハローワークが情報共有(就職支援や訓練内容)する機会の創出</p> <p>・ハローワークの職員等が、就職後、訓練受講生が訓練を通じて感じた点などの情報を得る機会の創出</p>
		介護・医療・福祉分野	<p>(1) 講師の選定に気を使っている。ベテラン講師を中心に若手講師の育成にも力を入れている。</p> <p>・コミュニケーション能力向上のため、グループワークの実施やわからないことは訓練生全員で考えるようにして「聴く力」と「伝える力」を身に付けてもらっている。</p> <p>・企業見学や体験等の充実を図っている</p> <p>(2) 講師をしている者がキャリアコンサルティングをしている。平日頃からコミュニケーションしている講師が実施するのは効果的。</p> <p>介護職が合わないと感じている受講生とのキャリアコンサルティングも重要。他職種などへの就職支援も実施している。</p> <p>・施設見学等を取り入れ受講生にあった施設(職種)を考えてもらっている。</p> <p>(3) ジョブカードですが、当面、ジョブカード認定講習受講者も作成できるように認めてほしい。</p> <p>・訓練施設とハローワークの関係性が薄くなっているような気がする。</p>	<p>(1) 座学で勉強したことが、現場体験を通じて紐づけしていくことができたので事前に勉強できたのは良かった。</p> <p>(3) 介護初任者研修対象ではない介護系訓練の場合は、実際の現場は忙しく、聞きにくい雰囲気があるので、事前に訓練で勉強できると助かるので、座学の勉強は短くして実技の時間を多くしてほしい。</p>	<p>(1) 基本的な介護・医療等の知識の習得。基本(教本)にのっとった介護体験</p> <p>(2) コミュニケーション能力、パソコンの基本スキル</p> <p>(3) 介護の未経験者は、仕事内容のミスマッチが多く早期退職するものが多いが、訓練受講者は仕事内容のミスマッチがないので採用選考でも非常に有利。</p> <p>・基本的な知識の習得や仕事体験を経験しているため、未経験者とは明らかに違うので採用選考でも非常に有利</p>	
		理容・美容関連分野	<p>訓練実施機関へのヒアリングは未実施</p>	<p>(1) 個人経営をしている講師先生の話がよかった。利用者では聞けない話も多く、接客スキル(気持ちを汲み取り提案する)についての講義もよかったので、今の仕事でも実践している。</p> <p>(2) ネイルの仕事を考えているため、エステやアロマを活かす機会がない。</p>	<p>(2) コミュニケーション能力は必須</p>	
30	和歌山	デジタル分野	<p>・企業ニーズに対応した訓練内容や現場業務に必要なスキルを重視したカリキュラム設定をしている。</p> <p>・2年の専門学校カリキュラムを6か月に期間短縮して設定するなど、カリキュラムを工夫している。</p> <p>・就職支援について、キャリアコンサルタントとの情報共有やIT分野に関する知識不足等の課題がある。</p>	<p>・訓練内容の言語やグループワーク経験等のカリキュラム内容は就職に役立っている。</p> <p>・6か月のカリキュラム内容は良かったが、もう少し高度なスキルや幅広い技術の習得をしたかった。</p> <p>・資格取得のためのカリキュラムの要望。</p> <p>・地元就職への支援。</p>	<p>・基本的な技術の習得はできている。</p> <p>・必要な技術の習得ができており、就職後も役に立っている。</p> <p>・より高度なスキルの習得をするのであれば6か月の期間では短いため、言語等内容を絞る必要がある。</p> <p>・コミュニケーション能力は必要である。</p> <p>・カリキュラムにビジネスマナー研修があり、社会人としての経験や技術を習得できるため就職活動に役立っていると感じた。</p>	<p>・6か月訓練としては基本的に継続するものの、デジタル分野の時流を注視しながらカリキュラムを柔軟に検討する。</p> <p>(例えば、生成AI等最新技術の利活用も含めたカリキュラムの設定等。)</p> <p>・キャリアコンサルタントのIT関連知識や就職情報等の習得及び向上によるキャリアコンサルティングの強化を図る。</p> <p>・「実習促進奨励金」を活用した企業実習の推進のため、受入企業の開拓。</p> <p>・就職支援カリキュラムの検討(時間割等)</p> <p>・グループワーク等によるコミュニケーション能力の向上。</p>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
31	鳥取	介護・医療・福祉・保育分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>「今の介護」の現状を伝えるため、現場で活躍している講師を選定するなど授業の中身に配慮している。</li> <li>訓練生自身がコミュニケーション能力の不足に気づいていないケースがあり、修了するまでに企業が求める人材の育成が難しい。</li> <li>訓練期間中の実習先の選定については、訓練生の希望を把握し決定することとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門用語を使うことが多い現場で、訓練で学んだ介護の基礎が現場でも役立つ。</li> <li>コロナ禍で実習がなかったので現場でのイメージができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務内容の基本的な理解ができており指導していく中で身に付けていくスピードが早い。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策は2類から5類に移行後も事業所内では変わっていない。予防の徹底が引き続き必要である。</li> <li>PC、タブレットの使用頻度が増えており、操作方法等のスキルの習得が望ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業実習・見学について、新型コロナの5類移行をふまえて積極的に実施するよう訓練実施機関に依頼する。</li> <li>コミュニケーションに係るカリキュラムの重要性について実施機関と情報共有を行う。</li> <li>訓練カリキュラムに基礎的なデジタルリテラシー要素を加味する。</li> </ul>
32	島根	営業・販売・事務分野	<p>【就職支援に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>訓練修了1か月後に就職が決まっていなかった人を対象に同窓会セミナーを実施。</li> <li>ジョブカードを訓練開始後すぐに作成し、早い段階で自己理解・仕事理解を深めるよう働きかける。</li> </ul> <p>【訓練の円滑な運営に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週に1度「人付き合いはどうしたらうまくいくか」をテーマにしたメルマガを配信。</li> <li>訓練初日に訓練生相互のコミュニケーションを促進するグループワークを実施。</li> </ul> <p>【スキルアップに関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワードやエクセルだけでなく、実務で使用する可能性のあるZoomなどの講習をしている。</li> <li>企業からの聞き取り調査を基にした独自テキストを使用。</li> </ul>	<p>【就職に役立ったもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PCや秘書検定の資格(採用要件を満たすことができた、自信をもって応募ができた)</li> </ul> <p>【訓練で学んでおくべきだったスキル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>礼儀や作法など実技的な部分をもっと学びたかった。</li> <li>Outlookのメールの使い方。一通り教えてもらったがもう少し詳しく聞きたかった。</li> </ul> <p>【訓練を受講して良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶことの楽しさを久しぶりに体験した。</li> <li>自己分析の時間。社会人になってからは貴重な機会でもっと受けたかった。</li> <li>様々な年代の受講生と交流できたことは、就職後のコミュニケーションに役立っている。</li> <li>人生のターニングポイントになった。</li> </ul> <p>【訓練施設に望むこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝え方の工夫(「その職は向いていない」とストレートに言われショックを受けた人もいた)。</li> <li>在職中に職業訓練の存在を知らなかった。もっと早く若い時に知っていたら職業選択の幅が広がったと思う。</li> </ul>	<p>【採用後に役立っているスキル・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>お客や取引先との受け答え(秘書検定などビジネスマナーが役立っている)。</li> <li>ワード、エクセル、パワポのスキル。</li> </ul> <p>【スキル以外に採用者に求めるもの】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーション能力(およびディスカッション能力)を最重要視している。</li> <li>一生懸命に取り組む姿勢、積極性および一般常識。</li> </ul> <p>【訓練未受講者との違いはあるか】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意欲が感じられる。対人対応が良い。</li> <li>本人の人もよく3か月程度で業務に慣れてもらった。今後は訓練生に関してPCスキルについては心配しなくてもよいと判断できる。</li> </ul> <p>【カリキュラムで力を入れてほしい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PCスキルは高いほど良い。</li> <li>職場見学。実際の現場をしっかりと確認してほしい。</li> <li>スキルより人としての魅力の根底をつくるようなカリキュラムが良い。</li> </ul>	<p>ヒアリング及び補完として行った求人者アンケートの結果により、訓練で学んだスキルは就職や実務の面で十分に役立っているが、一方で求人者が採用時に期待する能力として、意欲・コミュニケーション力などの社会人基礎力を最重視していることがわかった。</p> <p>そのため、現状のスキル・技能をしっかり学べるカリキュラムを維持しつつ、社会人基礎力も自然と伸ばしていけるような訓練とするため、「職業訓練用キャリアコンサルティングマニュアル」を作成することを具体的な改善案として提示した。</p> <p>マニュアルは、「訓練実施機関の誰もがキャリアコンサルティング的視点を持って受講生に関われるようになること」を目指し作成予定。第2回協議会において内容を報告、構成員の承認を得て、令和6年度の訓練より運用予定としている。</p>
33	岡山	デジタル分野	<p>○工夫していること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受講生同士でのオンラインでの座談会や勉強会の実施。</li> <li>現役のWebデザイナーの方に授業を担当してもらい、実践的な知識を提供。</li> <li>企業の採用担当者を招いての企業説明会を実施し、IT関連業界への理解を深める取組を実施。</li> </ul> <p>○国への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル人材の育成には若年層を重視したコース設定が必要であると考えられる。また、適切な広報を行い訓練を公平に受講できる仕組みづくりをしてほしい。</li> <li>電気代、人件費等の高騰など、市場の動向を踏まえて委託料に転嫁してほしい。</li> </ul>	<p>○訓練内容のうち、就職後に役に立ったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Linuxやネットワーク、権限周りのことなど</li> <li>WEBを使ってのお店の作り方</li> <li>フォントの良し悪し等の知識</li> <li>ネットワーク知識、サーバ知識</li> <li>CSSやHTMLの知識</li> <li>デザインの基礎知識</li> <li>プログラム処理の考え方、進め方</li> <li>LANの作成、コマンド入力</li> </ul> <p>○就職後に感じた、訓練で学んでおくべきであったスキル、技能等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体に詳しく勉強したかった。</li> <li>もう一つ上のレベルの知識</li> <li>Git(バージョン管理)</li> <li>PLCの技術</li> <li>社内インフラ関連</li> <li>クラウドの知識</li> <li>WordPressのスキル</li> <li>調べる能力</li> </ul>	<p>○訓練により得られたスキル、技能等のうち、採用後に役に立っているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製図CADやPC業務の応用</li> <li>インターネットシステムやホームページの改善、Excelを使った業務改善提案</li> <li>IT全般に関する知識やコーディングの知識、社内業のDX化の構築</li> </ul> <p>○訓練において、より一層習得しておくことが望ましいスキル、技能等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>IT関連の幅広い知識、プログラミング言語の知識、AWSやサーバに関する知識、設計書やテスト仕様書の書き方、電子証明書や認証の仕組みについての知識</li> <li>ビジネスルールやコミュニケーション能力</li> <li>一般常識、自己理解</li> </ul> <p>○訓練修了者の採用について、未受講者(未経験者)の採用の場合と比較して期待していること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度の知識やスキルがあること</li> <li>ExcelやPower Pointの活用、システム管理のスキル</li> <li>経験者との差を埋めるための努力や向上心、ビジネスマナーや社会人スキル</li> <li>プログラミングの基本スキルを身につけ、新人教育の過程をスキップできること</li> </ul>	<p>就職先のイメージのないまま、訓練をスタートする受講者がどうしても一定数入ってしまう。その結果コースの訓練内容にスキルがあていないケースで就職するときに応募企業が決まらないという事態になっている。そのため、就職先の業界企業への会社見学や業界企業から説明会にきていただくなどのミスマッチを減らすより一層の取り組みが必要である。早期の自己理解と就職希望職種決定が決め手になる。</p> <p>また、若年層の就業未経験者等にはビジネススキルとして、マナーやコミュニケーションスキルアップの授業も必要である。就職率アップのためには応募書類の作成支援とともにSPIなどの一般教養の対策も必要であることを早いうちに周知し、取り組みを促すなども行うべきであろう。</p> <p>さらにIT業界では通常の対面式の面接とともにオンライン面接が行われるケースが非常に多いため、その練習やスペースを貸し出すなどの積極的な支援が求められている。</p> <p>本県においては、ユーザ企業を主とした就職先とするデジタルリテラシー人材、中でもそのキーパーソンとなる人材(例えば、ITパスポート試験の範疇の知識を有し、中小企業においてDX等を推進する者等)についても広く求められていると考えられるため、当該人材を育成するためのコース設定も検討する必要がある。</p>

労働局 番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の 概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの 主な意見	
34	広島	IT分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い選択肢のベースとなる力をつけることができるよう出口を限定するのではなく、幅広い職種・分野でベースとなるような、次の一步に役立つような内容でカリキュラム等を考えている。</li> <li>訓練生の自律的な学習をサポートする体制を作りたい。訓練生は卒業後の継続的な学習が必要不可欠であり、人の手を借りなくても解決すべき問題に対処する必要があるため、訓練生同士のコミュニティづくりもしていきたい。</li> <li>講師の選定に厳しい基準がある。そのため、実際授業を教えられる能力がある人はたくさんいるのに、教務経験が足りないで採用できないケースが多々ある。良い人材を取るには委託料の問題もある。</li> <li>すぐに「難しすぎて分からない」「理解が進まない」と主張する者も多く、講師側が疲弊する状況もある。</li> <li>メンタル面での不調を抱える方が多く見られる。そうした中で精神保健福祉士の巡回があることは助かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>求人票ではWEB業務を担当する場合でも「一般事務・営業」となっており、就職先で戸惑うことがある。</li> <li>年齢、経験共に幅広い方が受講していたため、年齢別やレベル別のコース設定があっても良いのかもしれない。</li> <li>web会議システムやビジネスチャット、グループウェア、RPAなど、訓練カリキュラムには無かったが、そういった実際の職場ですぐに使えるような内容の時間があっても良かったように思う。</li> <li>自分にあった訓練を選択するために(事前説明会等で)、就職実績や修了生の声があるとよい。</li> <li>現場では既にAI等で自動化できている部分についての内容があった。</li> <li>訓練で使用されたツールが最新のものではないため、実際の業務には生きなかつた(実際IT系の現場で使うのはCanvaやAdobeが多いが、それらの訓練ではない)。</li> <li>対応職種が、IT営業、ヘルプデスク、情報システム担当者、ITエンジニアとあり、事務職が無かつたため、ついていけるか不安な気持ちがあつた。対応職種の書きぶりは改善を要すると思う。3か月の訓練では記載のような専門職に就くことは困難なように思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考えることができる人材、コミュニケーション力のある人材は有効。また、理想と現実を受け止め、認識し行動していくことが大切であり、そういった人材が将来的にも求められるように思う。</li> <li>コミュニケーション能力、ネット事業の専門知識があると良い。</li> <li>訓練内容を見ると、ExcelやWord等の基本的なスキルに多くの時間が割り当てられている。現場では基本のスキルが実践的に使えることがとても大切なので、とても良いカリキュラムだと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に現場で活用できる技能等と習得スキルのギャップが見られたため、求人ニーズに沿った内容になるよう改善を行うと共に、訓練の受講により得ることができる知識やスキルについてより具体的に見える化する必要がある。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
35	山口	IT分野(デザイン分野を含む)	<p>①訓練実施にあたって工夫している点</p> <p>◎訓練内容があまり理解できなかった訓練生への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングの訓練では、訓練でよく分からなかった内容について、チャットを通じた相談や希望者によるzoom形式での話し合いなどを行っている。</li> <li>・訓練生の履修状況には、差が出ることから、受講生がわかりやすいように、早口ではなく、ゆっくり喋るように心掛けた授業を行っている。</li> <li>・訓練の理解度を把握し、不十分であった訓練生には個別説明を行っている。</li> </ul> <p>◎訓練生の習得状況の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練内容の科目や単元ごとに確認テストを実施し、習得状況を把握している。中には、毎日、確認テストを実施しているコースや教科書内に掲載されている確認テストを実施し、習得状況を把握しているコースもある。</li> </ul> <p>◎訓練生との信頼関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練生には「資格取得・自営のための訓練」ではなく、「就職するための訓練」であることを事前に伝え、講師と訓練生の信頼関係の構築を重視している。特に、対面であることにより人柄や本音が見えやすくなる。</li> <li>・授業を担当する専門講師とは別に担任を設置することで、訓練生に安心感を与えるなどの工夫をしている。</li> <li>・朝学を設けることで、より訓練生が相談しやすい環境を整える。</li> </ul> <p>◎ハローワークとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークには定期的に訪問し、情報共有を図っている。</li> <li>・訓練生が同じ話を繰り返すことがないように、あらかじめ電話でハローワークの訓練担当者指名・予約するようにしている。</li> <li>・訓練内容のミスマッチを防ぐため、ハローワークで開催される訓練説明会で職業訓練実施機関が説明を行っている。</li> </ul> <p>◎訓練生に対する就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハローワークから提供される求人情報誌や職業訓練実施機関で把握している求人情報は、一律に訓練生に示している。</li> <li>・就職前の職場見学を受け入れてもらえるように求人者との繋がりを作るようにしている。</li> </ul> <p>②職業訓練実施機関が行っているキャリアコンサルティングの状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアコンサルティングの回数は、おおむね、1か月に1回の実施が適当との声が多かったが、中には、定期的、形式的に実施するより、必要に応じて随時、実施する方が効果的という意見もあった。</li> </ul> <p>③訓練実施に当たっての国への要望、改善して欲しい点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練科目に「接客対応技術」は必要。</li> <li>・訓練委託費の増額。</li> </ul> <p>④職業訓練実施機関における「IT分野(デジタル分野)」の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフトウェア開発、Webデザイン、Webクリエイターなどは3か月~6か月の短期間で即戦力を望むのは難しい。実際には、事務や営業などをベースに、これらの資格が補助的に、将来的に活かせればという企業が多いと感じている。</li> <li>・システムエンジニアやプログラマーなどの需要について、地域格差を感じている。これらの職種で、山口県内には需要が少ないと感じている。</li> <li>・10年前の求人募集の内容、「パソコン入力ができる人」から「ワード・エクセルができる人」になり、求められる人材が変わってきており、企業が人材を育てる余力がなくなっていると感じている。</li> </ul>	<p>①就職後に役立ったスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワープロソフト活用</li> <li>○表計算活用</li> <li>・高度なスキルではなく、基礎的なスキルが役に立っている。特に関数に関する知識。(化学分析オペレーター)</li> <li>・保護者への便り等文書作成においては、元々あるファイルを活用して改良していくことができた。(保育士)</li> <li>・従来は手書きだった管理表(体温表や出欠表)を、エクセルを活用して管理するように改善した。(保育士)</li> </ul> <p>○インターネット活用</p> <p>○SNSの活用</p> <p>○情報セキュリティに関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記3項目の知識習得により、面接時から将来的には社内LANの構築等についても任せたいと言われており、それらを学べたことが今後役に立ちそうである。(化学分析オペレーター)</li> </ul> <p>○営業、接客に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接客対応について、電話対応やお茶出し、敬語の使い方など、ほかに学べる機会がなかった。(一般事務)</li> </ul> <p>②あまり活用されなかったスキル</p> <p>○デザインに関する知識</p> <p>○Webデザイン・Webサイト構築</p> <p>○ソフトウェア開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職して1年間はプログラミングを活かす場はなかった。今後、効率化の案を考えていきたい。(一般事務員)</li> <li>・高度なパソコン操作を活用する機会がない。(一般事務員)</li> <li>・デザインやHPの業務に関わっていない。(化学分析オペレーター)</li> </ul> <p>○営業、接客に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接客対応について、現在の職務では役に立っていないが、過去に学ぶ機会がなかったため、一般常識的に参考となった。(障害者支援員)</li> </ul> <p>③今後、必要となるであろうスキル</p> <p>○SNS活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・採用企業ではInstagramの更新作業があったため、SNS活用をもっと学びたい。(保育士)</li> <li>・勉強しなかった資格は訓練で既に取ったので、新しく取りたい資格等はない。(一般事務員)</li> </ul> <p>④訓練内容に対する要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・IT関連の仕事に就く際には、プログラム言語に関する知識が必要であることから授業時間を増やすべきと思う。(化学分析オペレーター)</li> </ul>	<p>①採用時に必要とするスキル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ワープロソフト活用</li> <li>○表計算活用</li> <li>・メールや文書作成など、業務でよく使用するため。</li> <li>・必要最低限の知識があれば問題ない。</li> </ul> <p>○営業、接客に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受電の際には所属と名前を名乗るといったことが身についているので、助かっている。</li> </ul> <p>②今後身につけてほしいスキル</p> <p>○情報セキュリティに関する知識</p> <p>○ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的に社内サーバの管理やネットワークの構築の業務にも関わってもらいたい。</li> </ul> <p>○Webデザイン、Webサイト構築</p> <p>○画像・動画編集ソフト活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Webデザイン、画像編集などのスキルを活用し、アナログの現場からデジタル化に向けた先導役になってもらいたい。</li> </ul> <p>○営業、接客に関する知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・接客対応やコミュニケーション能力は必要である。</li> </ul> <p>③未受講者の採用の場合と比較して期待していること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練を受ける、スキルを身につけたいという姿勢・意欲を評価する。</li> <li>・社会人としての知識やビジネスマナーが身に付いていること、真面目に休まず勤務できる姿勢があることは評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・即戦力として採用する際に必ず求められるスキルとなっている「ワープロソフト活用」、「表計算ソフト活用」は訓練に必要なカリキュラムであると考える。</li> <li>次に、強化すべきカリキュラムとしては、職場内外のコミュニケーションツールとなっているメールやSNSの活用、また、将来的に活用が見込まれる知識・技能としては、「Webデザイン」、「画像編集及び情報セキュリティに関する知識」などのスキルが求められている。後者の場合は基本知識や基本操作が可能となるレベルまでの習得は必須と考える。更に県内産業及び企業の発展のためにはシステム開発などの高度なIT技術の習得も必要不可欠であり、プログラミング技術を習得できるカリキュラムは有効であると考えられる。</li> <li>そのほか、訓練修了生から「過去に学ぶ機会が無く役に立った。」、採用企業からは「場面に応じた適切な対応技術が身についている。」などの高い評価を得ている「営業・接客に関する知識」の訓練科目は引き続き、カリキュラムに盛り込むのがよいと考えられる。</li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
36	徳島	デジタル分野 (IT分野を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル分野は、専門性が高く、訓練コースにより難易度が異なるため、求職者向けの訓練施設説明会等を実施することにより、訓練内容、レベル感等が受講前に理解でき、ミスマッチを防ぐことが期待できる。</li> <li>訓練実施にあたって工夫している点として、訓練内容の理解促進のため入校前説明会を実施している。また就職支援として、企業説明会や訓練生が制作したホームページを発表する機会を設けて、企業と訓練生の出会いの場を提供することにより、企業の人材確保と訓練生の就職支援を行っている。</li> <li>訓練期間中に企業説明会や制作物の発表会等を実施し、訓練生のスキルを知ってもらうことは、就職につながる可能性が高まる。</li> <li>パソコン操作に関するトラブル対応やインターネットの接続・活用、ホームページの更新等、職場で求められる技術を習得できるよう、訓練のカリキュラムを実践的な内容に工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練の受講により、デジタル分野の知識を少しでも習得していることは、入社する際に有利に働くと思う。</li> <li>WEBサイトなどの実践的なカリキュラムの時間を増やしたほうが良い。</li> <li>実務においては、プログラム開発の基礎的な知識に加え、コミュニケーション能力、プレゼンテーション、提案力等が求められているため、職業訓練においても、より実践的なカリキュラムが必要だと思う。</li> <li>WordやExcelの資格取得が訓練コースの目標であったが、就職後の業務においては、訓練では想定していない様々なケースもあり、より実践を意識した演習問題をカリキュラムに取り入れ、実務に即した対応力を習得できると良いと思う。</li> <li>ビジネスマナー(上司やお客様に対する挨拶やコミュニケーション、名刺の受渡し方法など)や電話対応(電話のとり方、受話器の置き方、クレーム対応、声の大きさ)等への対応に苦慮したため、訓練内容にも取り入れて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT企業に即戦力として就職することは難しいが、デジタル分野の訓練コースで学んだ技術や専門的な知識はIT企業以外の企業において活躍が期待できる。</li> <li>DX人材として活躍するためには、プログラミング言語だけでなく、ネットワーク、セキュリティ、データ分析・活用等のスキルも必要となる。また、IT企業で活躍するには、実技のカリキュラムの時間を増やし実践力を養う必要がある。</li> <li>ネット環境やパソコントラブル等に対応できる人材であれば、IT企業以外の中小企業のDX化等に活用できるのではないか。また、クライアントに提案ができるようプレゼン能力の習得やビックデータを分析・活用できるスキルも養う必要がある。</li> <li>IT企業は人材が不足しているが、力のある人材でないと仕事をこなしていけない。職業訓練は良い制度ではあるが、スペシャリストを育成するには6か月では足りない。</li> <li>プログラム開発の基礎的な知識に加え、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、提案力などの職種間の共通的なビジネススキルが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>求職者支援訓練については、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構を通じて、以下4点の改善促進策を訓練実施機関へ提案する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 訓練受講者がカリキュラムにより習得できる知識・技能等への認識のミスマッチを防ぐため、訓練に応募する段階で、訓練内容や難易度が理解できるよう、訓練施設説明会や施設見学会を複数回実施することを提案する。</li> <li>② ハローワークと連携し、職業紹介時や面接会などで、訓練により、スキルを身に付けた人材が輩出されていることを事業主に周知する。また、事業主が訓練機関を見学できる機会を設けるよう提案する。</li> <li>③ プログラミング等の技術面だけでなく、コミュニケーション能力等の就職後役立つスキルをカリキュラムに加えることを提案していく。</li> <li>④ DX人材として活躍するためには、実践力を養うことが必要であるため、実技のカリキュラム時間を増やすことを提案していく。</li> </ol> </li> <li>委託訓練については、以下3点の改善促進策を、委託訓練の説明会資料へ追加するとともに、仕様書の変更を検討する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 資格取得が訓練の目標の一つではあるが、就職後の実践を意識した訓練内容を求める修了生の意見を訓練事業者に伝え、訓練へ盛り込むことを検討させる。</li> <li>② パソコン操作に関するトラブル対応やインターネットの接続・活用、ホームページの更新等、職場で求められる技術を訓練内容に加えるよう検討させる。</li> <li>③ ビジネスマナーを求める声が多いことから、カリキュラムの許す範囲で、実用的なマナーの習得を就職支援の一環で取り入れる。</li> </ol> </li> </ul>
37	香川	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈訓練において工夫していること〉</li> <li>・パソコンの授業では、実務での使用例の説明も交えながら教えている。</li> <li>・月1〜2回アンケートで習熟度や要望を吸い上げフィードバックしている。</li> <li>〈キャリアコンサルティングの状況〉</li> <li>・ジョブカードに加え、受講者の話を深く聞けるように実施機関独自の条件調査シートを活用している。</li> <li>・過去の受講生の成功例・失敗例を紹介することで説得力を持たせている。</li> <li>〈就職支援の取り組み〉</li> <li>・訓練開始間もない時期から、就職活動についての知識や心構えを説明している。</li> <li>・就職活動進捗シートを作成し、講師全員が就職活動の状況を把握できるようにし、修了後も継続して使用している。</li> <li>・企業の動向を知っておかないと適切なアドバイスができないので、企業と常に連絡をとって情報収集を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務で使えるくらい上達してから就職したかった。</li> <li>・試験対策の時間が多かったが、実務的なスキルを身に付けておけばよかった。</li> <li>・訓練生は訓練と実務を結び付けて考えられない。</li> <li>・事務経験が20年前にあったから、なんとかやれているが、事務未経験で訓練受講しただけだと、就職後大変だと思う。訓練と実務は違うから。</li> <li>・エクセルが一番役立っている。コミュニケーション、ビジネスマナーなどの講習も顧客先とのやり取りに役立っている。</li> <li>・先生の長年の経験に基づく企業情報や業界情報は、求人票ではわからないことなので非常に役立った。</li> <li>・休日にも面接指導をしていただき、画一的でない対応に感謝している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なパソコンスキルは訓練で十分身につけている。</li> <li>・専用ソフトを入社後覚えてもらうのに通常苦労するが、パソコンスキルがあるのでスムーズに覚えてくれている。</li> <li>・事務職でホームページを更新できる方であればより良いと思う。</li> <li>・パソコンスキル、コミュニケーションスキルは重要だが、資格は重視していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実務で使えるスキルのニーズが高いことを実施機関に情報提供し、カリキュラムを工夫していただくよう働きかける。</li> <li>・パソコン+αのスキルが就職に有利であることを実施機関に情報提供し、ITリテラシーをカリキュラムに組み込むことを推奨する。</li> <li>・就職率の高い実施機関から聞き取った就職支援の取り組みを他の実施機関に情報提供し、就職支援力の強化を図る。</li> </ul>
38	愛媛	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入講後のスキルの差が大きいため、一人ひとり習得度を確認しながら授業を進めてる。</li> <li>・ITに向き合い、自宅でも3〜4時間勉強している生徒と全くしていない生徒の差が激しい。</li> <li>・プログラミングのカスタマイズ力をつけるために、各自で考えた様子を「仕様決め→プログラミング→完成」まで行った。</li> <li>・企業実習を行いたい希望があるが、実習先を探すのが難しいため、実習の受け入れ先の紹介やマッチングなどの支援システムがあれば、実習も取り入れやすくなる。</li> <li>・受講者の確保を図ってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IT関連事業所への就職を希望していたが、IT関連未経験者の採用枠を見つけないことができなかった。</li> <li>・アルゴリズム(プログラム言語で課題を解決させるための処理手順の記述)を学んでおきたかった。</li> <li>・履歴書・職務経歴書の添削や面接のアドバイスが役に立った。</li> <li>・ネットワーク・サーバー構築技術が就職役に立っている。</li> <li>・データベースとスマートデバイス制御を学んでおきたかった。</li> <li>・Excelを業務で使用していたので、なんとなく訓練内容が理解できましたが、Excelを使用したことがない方については行くのが大変そうでした。</li> <li>・プログラミングの時間が短かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語を特化して深く集中的に訓練した方が他の言語への応用も効きやすいと感じる。(広く浅くではなく、一つの言語を深く)</li> <li>・ネットワーク・サーバー構築技術やWEBデザインとデータベースは採用後役に立っている。</li> <li>・情報セキュリティ対策やオペレーティングシステムなどの知識が採用後役に立っている。</li> <li>・一般的にですが、コミュニケーション能力や社会人としての心構えやマナーが不足している方がいるので、再認識させて欲しい。</li> <li>・採用に当たっては、民間企業での取引時の需要が増大しているクラウド系スキルやサーバーやネットワークの構築を行えるスキルを重視している。</li> <li>・採用に当たっては、JAVA、Python、VBnet、C#などのいずれかの言語でのシステム開発を行える知識・スキルを重視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練カリキュラムの改善促進策として、ニーズを踏まえた訓練内容・訓練期間の分析・検討、設定の促進、社会人としての基礎能力講習等の時間数増、応用力をつけるため実践に即した訓練内容(企業実習の推奨、各自の仕様に基づくプログラミングを作成、トラブル対応など)の検討、eラーニングの活用勧奨、OA訓練との違いが分かるよう補足資料の作成等を行うよう、委託訓練については受託先募集の際周知・勧奨、委託要綱等に盛り込むこととし、求職者支援訓練については認定申請の募集をかける際、周知・勧奨を行うこととする。</li> <li>・就職支援として訓練申込み前から訓練修了後3か月まで一貫した就労支援の強化を図り、訓練修了者が応募可能な求人への開拓、求人要件緩和と指導等を引き続き積極的に行うこととする。</li> <li>・受講者の確保として関係機関と連携し、SNS等を活用した周知広報を行うとともに、受講者の生の声を紹介し、イメージアップを図ることとする。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
39	高知	介護・医療・福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後を見据え、テキストの内容だけではなく、介護現場の声を多く訓練生に伝えている。</li> <li>・外部講師を含む複数人で面談し、多面的な就職支援になるように努めている。</li> <li>・開講するかどうか、奨励金を見込んで損益計算をして判断している。訓練生がほとんど出席せず中途退校した場合は奨励金が出せず、経営に影響しているため、最低保証という形でいくらか補填していただけたらありがたい。付加奨励金の就職率が65歳以上を除外すると就職率が下がり、奨励金額が減額になるため、この点も配慮してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障害者に関わらず、介護・支援の心構えを学んだこと、特に、障害者の理解や特性についての知識は今の仕事に役立っている。目標は介護福祉士実務者研修であるが訓練に上位資格の介護福祉士の内容を含んでいただけると、3年の実務を経たのち受験を検討したい。</li> <li>・「訓練の内容はどうですか?」と聞いてくれるような相談員もいて、その配慮が嬉しかった。キャリアコンサルティングで自身の職歴を振り返ることができたのが良かった。訓練で様々な年齢の方と関わり、助け合いながら受講したことが、就職後の現場で大いに役立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人としての尊厳を重視できること、コンプライアンスや道徳的なものが身につけており、現場で実践できている。実習の実践ができています。</li> <li>・実技や介護知識だけではなく、道徳的なものや協調意識が身につけていることが望ましい。</li> <li>・即戦力として期待している。</li> <li>・訓練内容は充実しており手厚い。訓練受講により連帯感や協調性が身につけている。訓練修了生は、訓練校とのネットワークによる参考情報があり、採用時に見極めしやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護分野は応募倍率が低く、就職率が高い分野であり、人手不足分野の社会的ニーズが高い職種であることを鑑み、できるだけ募集期間の穴を作らない、訓練期間の設定を行う。奨励金の支給要件緩和については、厚生労働省に上申する。</li> <li>・受講者のスキル技能の習熟度を高める事は必須であるが社会人としての完成度を高めるよう工夫を行う。</li> <li>・ヒアリング調査の結果を好事例として、求職者の応募動機に活用する。</li> </ul>
		美容・美容関連分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的なスキルが身につくことを重視し、座学と実技を交えたカリキュラムを組んでいる。接客業であるため、訓練時間以外でも言葉づかいや態度、身だしなみ等に配慮するように指導している。</li> <li>・個別面談で履歴等細かく聞き取り、就職先を時間をかけて絞りこんでいる。そのため日頃の施設職員と訓練生とのコミュニケーションを大事にしている。</li> <li>・短時間訓練では訓練生がより集中して訓練に臨む傾向にあり、今後も短時間訓練を続けてほしい。また、4月に開講ができるようにしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技が難しかったが、他の訓練生と切磋琢磨し、何回もトレーニングを行ったことにより、技術はもちろんチームワークの大切さを知ることができた。</li> <li>・もう少し多くの技術の訓練時間と、他の事業所での職場体験の時間があれば良かった。</li> <li>・無料で受講できたことが大変ありがたかった。キャリアコンサルティングでは熱心に話を聞いてくれて大変ためになった。ハローワークの担当者も親身に相談にのってくれ、ひとり親であるため求職条件等も細かく確認してくれて感謝している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎の知識・技術を身につけてきているので、育成に時間を費やすことなく、とても役に立った。</li> <li>・資格の有無は考慮しないが、今後の採用について未経験者ではなく、訓練生が経験者の雇用を考えている。</li> <li>・スタッフにお客様がつくと考えているので、対人力、コミュニケーション能力、人間性を重視している。訓練内容については深く考えていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練の設定については、多様な働き方という考え方を取り入れ今後も柔軟な設定を考えてゆく。</li> <li>・カリキュラムには技術スキルの習得はもちろんだが、コミュニケーション等の習得をする機会も必要である。</li> <li>・実技習得の時間を最大限確保するとともに、実習等の実地体験の検討を要する。</li> </ul>
		営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門講師が作成した映像講義と現場での個別指導を併用している。講義内容の復習や試験対策等、現場で訓練生一人ひとりに時間をかけフォローしている。</li> <li>・試験結果発表後に本格的な就職活動を始める訓練生が多く、就職状況報告までの期間が短くなるという宅建コース特有の課題がある。就職状況報告の期限を3か月より長くしてほしい。</li> <li>・求人している企業と訓練生とのマッチングの場を提供している。</li> <li>・求職者が雇用されにくい不動産業界の繁忙期と、就職活動時期が重なっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務で専門知識を使うことと、資格がないと仕事が出来ないため、宅建の資格が取得できたことは大変役に立っていると言える。</li> <li>・訓練内でパソコンスキルの習得や、物件入力、画像の取り込み、営業スキル習得等の実践的なカリキュラムがあればなお良かった。</li> <li>・HWで受けたキャリアコンサルティングで履歴の振り返りができたので良かった。面接練習や履歴書の書き方等は役に立った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募者の8割は宅建資格を持っていない。資格取得者は即戦力として重宝する。</li> <li>・不動産の専門知識、基本的なパソコン入力ができること、お客様対応のためのコミュニケーション力は習得しておくことが望ましい。</li> <li>・訓練校で不動産の知識を身につけていることに期待している。未経験者でもOJTでフォローする。</li> <li>・不動産の知識を身につけている訓練生は、宅建試験に合格していなくても、意欲があれば応募してほしい。接客スキルやコミュニケーション能力、本人の人柄も重視している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的職業訓練の最終目標は就職であるため就職支援は重要であり、ハローワークとの連携を強化する。ただし、就職状況報告書の提出緩和要望等は厚生労働省に上申する。</li> <li>・合格できなかった受講生の就職支援は重要であり、求人の選定等ハローワークの支援を重視する。就職後を考えパソコンスキルの習得が必要。</li> <li>・専門資格取得には大きく時間を必要とすることは否めないが、資格所得が最終目標ではなく就職し仕事をするのが最終目標であるため、カリキュラムの設定が必要。なおこの訓練に限るものではないが、キャリアコンサルティングは必要性は認められるのでハローワーク等積極的に活用する。</li> </ul>
40	福岡	IT分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム開発演習に力を入れており、Webシステムの改修や開発、実際のPG・SE業務に極めて近い内容になっているため、修了生からも仕事に活用できていると大変好評を得ている。</li> <li>・福岡・九州地域ではJavaプログラマーの需要が多いが、今後はPythonやC++の需要も見込めるとの情報を得て、適宜カリキュラムに反映させている。</li> <li>・自社採用したエンジニアと定期的に情報交換して、訓練に反映させた方がよいと思われる情報があればカリキュラムに反映させている。</li> <li>・人前で自己表現することに慣れ、かつ「自分の考えや思いを客観視して考えること」を身に付けてもらうため、受講生間でディスカッションを行う時間を設けている。</li> <li>・受講生から、修了生の声や進路について知りたいという声や寄せられるため、修了生にアンケート(配属後の最初の仕事は?、訓練で学んだことがどのように役立った?等)を実施し、受講生に伝える取り組みを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークは実務に沿った勉強ができ、採用企業からの評判も良いものの、グループワークを実施している訓練はあまりないと現在勤務している会社の人事担当者から聞いた。また、メンバーとのコミュニケーションが深まり、同時に考え方の相違に伴うトラブル時の対処方法等も学べた。</li> <li>・4つの言語(C#言語、Java言語、データベース(SQL)、Python言語)の中でも特にC#言語、Java言語、データベース(SQL)が業務に役立っている。</li> <li>・職業人講話は、実際に働いている方の業務の話が聞けて大変参考になった。</li> <li>・Python言語については活用機会が少ない。現在の職務の経験値を深め、機会があればPython業務にも参画したいと考えている。</li> <li>・訓練当初に学んだ数学的な2進法・10進法の知識は役に立っており、業務で使うこともない。</li> <li>・プログラムのテストを実施するうえでのエビデンス(比較・証明等)の作成において、Excel(関数等)、PDFを使用する事が多く、訓練の中でExcel、Word、PowerPoint等を高いレベルで学べれば良かったと思う。</li> <li>・困ったときにどう調べたらよいか、検索の仕方、調べ方を訓練の中で教えてもらえば就職後も役に立つと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの基本であるSQLの知識は実際の業務に役立っており、必須とも言える。</li> <li>・訓練でプログラミングの基礎を勉強しているため、仕組み、プログラム等の業務に入りやすい。</li> <li>・訓練内容全般が業務と関連性があり、業務の遂行上、大変役に立っている。</li> <li>・職務を遂行するうえでのコミュニケーション能力。特に業務における報告、連絡、相談は徹底すべき事であり、重要である。採用面接時においても、この点を重視している。</li> <li>・基本設計(工程)のエビデンス知識は必要のため、Excel、Word、PowerPoint等のソフトに関するスキルアップも求められる。</li> <li>・顧客より必ず聞かれるSQL知識は、充実していると周りとの差がつくと言える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークによる演習実施やコミュニケーション能力の向上、Excel、Word、PowerPointを高いレベルで使用できるようなカリキュラムが有効であると、訓練修了生、訓練修了生採用企業から共通の意見として挙がった。</li> <li>・採用企業からは、人手不足を理由にすぐに誰でも採用するわけではなく、職業訓練で知識・技能は元より、コミュニケーション能力を身に付けている事も重要であるとの意見が多く、訓練科目については、データベースの基本であるSQLの知識を学んでいることは、非常に効果的であるとの意見が多かった。</li> <li>・このような受講者及び企業のニーズ等については、今回のヒアリングに留まらず日頃から把握し、機構福岡支部や福岡労働局が定期的に実施している求職者支援訓練実施機関への訪問の場において情報提供を行うほか、公的職業訓練実施カリキュラムに反映させることも検討し、訓練修了生の就職促進に繋げていくこととしたい。</li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
41	佐賀	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の受講者の習得度の差を想定しながらPCの基本操作を設定、習得状況に対応できるカリキュラムを設定。</li> <li>メンタルヘルスのカリキュラムも組み込んでいる。</li> <li>資格取得と実技科目を多数実施することにより、訓練修了後すぐに仕事に慣れるよう即戦力を重視。</li> <li>訓練生のさまざまなバックグラウンドに応じて、キャリアの棚卸、自己理解、職業理解をポイントに就職支援を実施。</li> <li>同じ担当者がキャリアコンサルティングを実施し、切れ目ない支援に配慮。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン操作が初めてだったので、Word、Excel、PowerPointスキルやパソコンの基本的な操作（コピー、貼り付けなど）は役に立った。</li> <li>履歴書の書き方、面接練習、ビジネスマナーも役に立った。</li> <li>PowerPointは操作方法までを学んだが、プレゼンの実技まで訓練として実施してほしい。</li> <li>就職活動と検定試験対策が同時並行だと中途半端になる。期間の猶予が欲しい。</li> <li>受講に不安もあったが、受講後は同じ目標（就職）の仲間がいて精神的な支えになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコン操作が必須となっている業務が多く、年齢を問わずある程度パソコンができる人が求められているので、パソコンが全くできないと採用が難しくなっている。</li> <li>公的職業訓練修了者ということ意識して採用するケースは多くはないが、取得している資格は採用の参考となる場合が多い。働く部署によっては、ワード、エクセル、パワーポイントなどのスキルが必要となるので、資格を持っているとその人の能力の判断基準となる。</li> <li>事業所内でも、スマホやパソコンなどでのメールのやり取りが多くなってきているが、人と人の会話によるコミュニケーションができなければ、メールで内容を伝えることができない場合も多く、コミュニケーション能力、ビジネスマナーや一般常識などが重要となってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ITの基礎スキルを強化するため、R5はITスキル2級レベルまでのカリキュラムとしていたが、R6は「ITスキル3級レベル+α」とし、習熟度アップを図る。</li> <li>訓練効果を高めるため、年齢層等が様々であっても指導が行き届く人数で設定する。</li> <li>多くの企業の求める人材に近づけるため、ビジネスマナーやコミュニケーションスキルアップを図れるカリキュラムの強化を訓練実施機関に依頼する/委託訓練における企画提案公募の評価基準を見直す（現状の就職支援に関する評価点をアップし、全体の30～40%とする。）</li> <li>精神保健福祉士等の専門家を訓練実施機関へ派遣し、訓練を行う上でのメンタルヘルスに関するポイントなどの助言、訓練生の相談対応を実施。</li> </ul>
42	長崎	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>フロのWebデザイナーを講師として、企画からデザイン、制作、検取までの業務一連の流れを体験学習できるカリキュラムを作成。</li> <li>JavaScriptやPHPのプログラミング導入、AIに関する情報取得。</li> <li>基礎をしっかり身につけてもらい、新しいことに活用できるようにしている。</li> <li>Webサイトの知識にRPA技術を取り入れて、総合的な思考、実現ができるような課題を出している。</li> <li>ハローワークでの相談内容を訓練実施機関と共有できないか（本人の同意が必要）</li> <li>訓練内容が活かせる求人確保をハローワークにお願したい。</li> <li>画像や動画が編集できる高スペックのパソコンの導入、使用頻度（負荷のかけ方）が高いため故障の頻度が高く償却期間が短くなっている。また、使用するアプリケーションが高額である。さらに物価高騰の影響等から訓練を維持する費用が上昇している等の理由から最低委託金額等を保証する制度を設けてもらいたい。</li> <li>受講生の資格取得等に関し、受験会場が県外（遠方）にしかない場合に交通費等が高額になることから、受講生に対する受験料割引制度や検定合格者に受験料補助制度を新設してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表計算、VBA、ネットワークセキュリティの知識が役に立った。</li> <li>Web関連の仕事に就いたので訓練で学んだことが非常に役に立った。</li> <li>プログラミングの就職先で活かしていない。</li> <li>エクセルのマクロに関してもっと詳しく学びたかった。</li> <li>訓練内容（実施期間（6か月）、カリキュラム内容等）については、概ね満足されている。</li> <li>今後機会があれば同分野の新たな資格、スキルが身に付くコースを受講したい。</li> <li>今回受講した内容を活かせる求人がほとんどなく、あっても知識だけでなく業務経験者限定の求人となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パソコンの基礎全般のスキルが習得されていることは重視した。</li> <li>今後、業務のデジタル化を進めていく中で本人の専門的スキルは非常に役立つものと考えている。どのようなシステムを構築するか検討する中で、本人の意見も参考にしながら、ソフト（アプリ）を導入していくようにしたい。</li> <li>ホームページの管理、データ管理において本人が習得しているスキルが活かされている。</li> <li>プログラミング知識、情報セキュリティ知識、WordPress、Officeアプリケーションの実践的な技能が活かされている。</li> <li>訓練終了後の早い時期の就職であったため即戦力として活かされている。</li> <li>特定の専門的知識スキルは必要ないので、汎用的に対応できる方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業ニーズの把握について、より多くの企業の情報を得る。</li> <li>職業訓練実施機関はもとより、県・機構・ハローワークで得た情報をカリキュラムに活かせるよう共有できる体制を構築する。</li> <li>パソコンの基礎全般の知識・技能の習得はもとより、多くの産業で汎用的に対応できるスキルについては、カリキュラムに出来るだけ組み入れる。</li> <li>カリキュラムについても、受講する側がより理解するような時間割等を作成する。</li> <li>受講者への各種資格（検定）の取得促進を図る。</li> <li>資格取得は本人のモチベーションの強化になり、職業訓練実施機関に対しても委託費の上乗せに繋がることから、ハローワークの相談時において受験を促す。</li> <li>効果的な就職支援を行う。</li> <li>企業に対して訓練内容（修了生の仕上がり像など）の周知を行う。また、当分野のスキルを活かせる職種の提案を行い求人確保することにより修了後の就職につなげる。</li> <li>ハローワーク職員を対象とした職業訓練実施機関からの訓練内容の説明、訓練施設見学を行うことで訓練コース理解を促進し、受講者の確保、求人開拓（求人条件変更含む）に活かす。</li> </ul>
43	熊本	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>訓練生のスキルにバラつきがあるため、まず基礎的操作から始め訓練終了までにITスキルの難易度が上がるようにしている。</li> <li>実務につながるよう常に内容をアップデートしている。</li> <li>半導体企業の進出もあり国が求めるデジタル人材育成に対応するため訓練カリキュラムの見直しを行なった。</li> <li>学習の目安として資格取得を推奨。</li> <li>コミュニケーション能力を高めるためグループワーク形式での学習を取り入れている。</li> <li>訓練科目選択のミスマッチ防止のためオープンキャンパスを開催している。</li> <li>訓練終了3か月前までの訓練生全員の人材情報誌を作成し企業へ情報提供を行っている。</li> <li>各教室にはハローワーク等の求人票を掲示し、訓練終了2か月前就職未内定者には相談及びハローワークへの相談誘導を行っている。</li> <li>訓練終了後の時間を活用して単独企業説明会を約1時間・週2回ほど実施している。</li> <li>修了生の就活状況や就職先等からの情報収集を行い、成功・失敗事例や求人側の情報を適宜提供している。</li> <li>ジョブ・カードを活用した就職支援を行っている。</li> <li>個人の適性に合わせハローワークの求人を探し就職活動の支援を行っている。</li> <li>就職支援の上限時間を長く取れればよいと思う。</li> <li>少人数での開催でも実施しやすいように最低保証金額を制度的に設定してもらえるとよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学んだプログラム言語で他の言語にも応用する力が付き仕事で役立っている。</li> <li>仕事をすらすらと役立っている訓練内容はいくつかあるが、職業訓練自体が再就職の大きなステップとなった。</li> <li>就職先の業務によりデザイン系、Web関係は活用されていない。</li> <li>活用されていないものはない。</li> <li>全てが業務と直結するわけではないが、いかに業務と紐づけて理解できるかで更なるスキルと技能の向上につながると感じるため、基本情報技術者試験レベルの知識は習得しておいたほうが良かった。</li> <li>会社ごとに必要とするスキルは異なっているため、幅広い知識を身につけておいたほうが良いと思った。</li> <li>学んだ訓練で応用力も身につけることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT用語での会話に対応できる、基本的な操作ができるなど会社内での説明がスムーズに行えた。</li> <li>基本的なプログラミング技術に関する知識をしっかり身につけており、併せて論理的な思考能力も鍛えられているため、プログラム開発だけでなく、仕事に関する会話や段取りをスムーズに進めることにも役立っている。</li> <li>学んだ単語や知識がPC利用の際、どの部分で利用されているかIT用語への理解度を高めておいて欲しい。</li> <li>就業における基本的なビジネスマナーの習得。</li> <li>業界未経験者でもIT知識のあることで斬新なアイデアや考えを取り入れるきっかけとなることを期待される。</li> <li>目標となる訓練を受講してきているので仕事をしっかりとこなせる。</li> <li>基本的なレベルでは未経験者より優れており、入社後の教育がスムーズに進められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間で訓練内容や募集定員及び開講時期の偏りが無いよう訓練の設定を検討する。</li> <li>就職支援時間が充分確保できるカリキュラムの推奨。</li> <li>基礎知識の習得は好評価であったため、同知識のカリキュラム設定を継続する。</li> <li>半導体企業の進出もあり、国が求めるデジタル人材育成に対応するため一部カリキュラムの見直しを実施。</li> <li>資格試験や実務を意識したカリキュラムでは現状に合ったアップデートを推奨する。</li> <li>分野に関係なく、最低限のビジネスマナーが習得できるカリキュラムの設定を推奨する。</li> </ul>



労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
44	大分	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練生に対してより密なコミュニケーションで就職指導ができてきている(メンタル面でのフォロー、就職後も悩み相談に訓練校へ来る修了生もいる)</li> <li>・デジタル業界については(CG・Webなど)最新の技術と情報を常に取り入れたい、そのために基礎的な訓練2か月+応用4か月の計6か月ではなく、応用5か月のみにしてはどうか</li> <li>・6か月の訓練期間では県内企業が求める人材の育成は難しい</li> <li>・訓練期間を1年間に伸ばしてはどうか、そうすると基礎→応用→実践まで教えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練で習得したExcel・Word等の知識は活かすことができた(関連就職でない場合も含む)</li> <li>・デザインをする際に使用するソフト(Illustrator、Photoshop)の知識が活かせている</li> <li>・基礎的なビジネスマナーの勉強をしておけばよかった</li> <li>・訓練で学んだ内容のバージョンが古く、就職後に戸惑った</li> <li>・訓練期間をもっと長くとして、深く学びたかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「経理」部門として採用しているが、社内イントラ等の情報システムを利用するため、情報系の専門知識がある(停電等トラブル発生時のシステム復旧作業等)</li> <li>・Illustrator、Photoshop(編集ソフト)等、訓練で学習した基本操作ができる</li> <li>・Web制作について言語の知識があり、Webサイト更新等の作業がスムーズに行える</li> <li>・訓練修了者は、基礎知識があるので、教育をする際に未経験者よりも理解力が高い</li> <li>・就業する上で、コミュニケーション能力を求めている(顧客とのやりとりが重要なため)、ビジネスマナーやタスク管理能力も重要になる</li> <li>・様々な職業講話を受け、業界の知識を習得してほしい</li> <li>・企業によって使うソフトが違うため、一つのソフトについて深く学ぶよりも、様々なソフトの基礎部分を幅広く学んでほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練コースのレベルを差別化し、R6年度からの訓練計画に反映</li> <li>(例) 求職者支援訓練: 3か月→基礎コース中心 委託訓練: 5~12か月→応用、実践コース中心</li> <li>・求人ニーズを踏まえたソフトや機材の導入について実施機関へ依頼する(実現は難しいかもしれないが、ヒアリング結果を踏まえて依頼)</li> <li>・企業の求める人材に近づけるように、ビジネスマナーやコミュニケーションを中心とした訓練カリキュラムを強化してもらえよう、実施機関へ依頼する</li> </ul>
45	宮崎	デジタル分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>(委託費の改善)</li> <li>・環境整備(機材・人材確保)において、物価高騰もあり、委託費の拡充をお願いしたい。</li> <li>(職業訓練の適格あっせん)</li> <li>・申込相談時において、受講内容を理解したうえで、希望職種に合致した訓練コースの選択が重要。</li> <li>(ハローワークとの就職支援連携強化)</li> <li>・地域の労働市場や本人の特性等、必要な情報を可能な限り共有することで、就職支援の強化につなげたい。</li> <li>(周知広報にかかるルールの緩和)</li> <li>・応募チラシやメディア活用に関するルールについて、自由度を上げてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ビジネスマナーの強化)</li> <li>・再就職に際して、ビジネスマナーの重要性を再認識した。職業訓練の一環として、強化してほしい。</li> <li>・就職後も学びの継続が重要。自分の考えをまとめ、発信する能力や協調性といったマインドを養うことも重要。</li> <li>(基礎的なPC知識)</li> <li>・習得したExcel、Word等の基礎知識については、就職後も幅広く活用できおり、業務に役立っている。</li> <li>(専門知識の習得)</li> <li>・実務で必要となる専門知識について、もっと習得できる内容が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ビジネスマナー等の習得)</li> <li>・社会人としての基礎知識やコミュニケーションスキルはどの職種においても重視されており、訓練生の価値を上げる意味においても重視すべき。</li> <li>(専門性の向上)</li> <li>・企業が求める即戦力レベルでの知識習得、対応できる人材育成が可能なコース設定についても検討する必要がある。</li> <li>(事業主に対する制度の周知)</li> <li>・実際に職業訓練制度の内容を知っている企業は多くないと思われ、訓練生の価値を向上させる意味においても、企業への認知度を上げる取組が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(訓練内容について)</li> <li>・ビジネスマナーの強化、上位レベル訓練の設定検討等について検討。</li> <li>(訓練募集時期・周知強化について)</li> <li>・受講機会確保の観点より、開校時期の柔軟化および周知広報の強化について検討。</li> </ul>
46	鹿児島	営業・販売・事務分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践で応用力が利くように、実務に即した教材・資料等を用意しているほか、日報・日誌を記入させることで、個人ごとの課題や理解度の把握に役立っている</li> <li>・職業人講話においては、修了者及び採用企業からの事例発表の機会を設けることで、身近な目標と認識してもらえるなどの効果がある。さらに、受講生が当該企業の見学を希望する場合は、実施にあたって調整を図ることで、マッチング機会を設けている。</li> <li>・定期的な求人情報の提供のほか、履歴書・職務経歴書の作成やジョブ・カード活用のアドバイス、面接練習等の支援を実施し、就職への意欲喚起を図っている。</li> <li>(以下、訓練実施機関からの要望)</li> <li>・職業訓練の実施にあたっては、パソコンのバージョンアップ、セキュリティの維持管理等に相応の経費が必要である。さらに、物価高騰や人件費の上昇によって、経営に影響が生じていることから、訓練委託費、認定職業訓練実施奨励金について、所要の見直しを行ってほしい。</li> <li>・県委託訓練と求職者支援訓練において、できれば就職率の考え方を統一してほしい。求職者支援訓練は雇用保険適用就職率としている一方、県委託訓練では週の所定労働時間が20時間以上、かつ雇用期間が「定めなし」又は「4か月以上」とされており、3か月ごとの契約更新といったケースが就職支援経費の算定対象外となる点を改善してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書の作成のほか、各種データを取りまとめ、Excelで管理する際に、習得したスキルが大きく役立っている。</li> <li>・再就職先も専門職だが、これまで手書きで記録していたものをパソコンで処理・管理できるようになり、作業時間の短縮と効率化を図ることができている。</li> <li>・ビジネスマナー、コミュニケーション力を改めて学ぶことで、新たな発見につながり、仕事にも役立っている。</li> <li>・訓練修了後、すぐに就職が決まったが、他の分野など、より実践的な内容を学ぶことにも興味を持った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス文書の作成、帳簿や画像データの管理など、PCやICT機器等に関する基本的なスキル、技能が備わっており、業務を遂行する上で役立っている。</li> <li>・中途採用者には実務全般を期待しているため、Excel・Wordの専門用語(セル、フォント、シート、ヘッダー・フッター、右・左揃え、均等割付など)や簡単なレベルの関数まで理解しておいてほしい。</li> <li>・コミュニケーション力(双方向のもの、職場・組織におけるもの)やビジネスマナーは、特に重要なので、しっかりと身に付けてほしい。</li> <li>・指示されたことだけでなく、主体的に課題を発見するなど、計画力や実行力が備わった人材を求めたい。</li> <li>・訓練受講によって習得されたスキル、技能等を面接のみで評価することは難しい。このため、訓練成果を分かりやすく示してもらえれば、ありがたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスマナー、コミュニケーション力は業種・職種を問わず重視されているため、訓練カリキュラムに盛り込むことを基本とし、職業人講話においては訓練修了者や採用企業を含め、外部講師の効果的な活用を促すものとする。</li> <li>・職業相談におけるオンラインの活用等を通じて訓練実施機関とハローワークの連携強化を図るとともに、修了後の人材像を踏まえた個別求人開拓を実施するなど、きめ細かな就職支援に取り組むものとする。</li> <li>・ジョブ・カードは、訓練受講による成果の可視化に加え、「生涯を通じたキャリア・プランニング」及び「職業能力証明」のツールであることから、引き続き、活用の促進に取り組むものとする。</li> <li>・実践的な訓練コースの受講前に、基礎的なITスキルを習得する必要性が認められる場合は、積極的に連続受講を勧めるものとする。</li> </ul>

労働局番号	労働局名	(a) 検証対象の訓練分野	ヒアリング概要			(e) 訓練カリキュラムの改善促進策(案)の概要
			(b) 訓練実施機関からの主な意見	(c) 訓練修了者からの主な意見	(d) 訓練修了者を採用した企業からの主な意見	
47	沖縄	デジタル分野 (デザイン、IT)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職までのスケジュールを立てられない方も多い。上記のことから、これまでの就職支援の対応では難しいと考え、今後の就職支援に「職場見学や職業人講話」などを取り入れたいと感じている。</li> <li>・テキストや資格取得を目的とした指南に留まらず、より実践的な訓練になるようにしている。また、グラフィックの講義にはMac、Webの講義にはWindowsを使用し、現場で使用頻度の高いPC、アプリケーションソフトを使用している。</li> <li>・現在、光熱水料費等の物価高騰や昇給アップなどの国からの要請がある。訓練を開講するにも経費がかかるため、奨励金の単価を上げてほしい。</li> <li>・職業訓練を実施させて頂いて、10年以上経ちますが、1人当たりの訓練単価は以前から変わらない。昨今の状況を鑑み、訓練単価を検討頂きたい。</li> <li>・キャリアコンサルタントを招いた個別相談を労働局やハローワークをお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練では基本設計(どうやってシステムを作るか)の流れを学んだが、訓練期間が短かったので資格取得に追われ就活(適性検査も含む)の時間が少なかった。</li> <li>・訓練校の近くにIT企業があり、話を聞く機会を設けてもらえることで就職後のイメージができた。</li> <li>・訓練の4か月は短く無駄なカリキュラムはなかった。基本情報技術者資格の取得に向けたカリキュラムを増やして欲しい</li> <li>・基本情報技術者資格に向けた座学の時間が少なかった。</li> <li>・Webコンテンツに必要な知識(スマホ向けコンテンツの画像の大きさピクセル数の決まりやPC向けコンテンツの作成の際の画像の扱い方など)、各ソフトウェアのハンナーを作成する際の利用規約(LINE、インスタ、YouTubeでそれぞれ違う規約がある)など、現場ですぐに使える知識を教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング言語の資格よりも基本情報技術者資格を持っていたほうが目に留まる。</li> <li>・WEBデザインの基礎知識、デザイン参考の調べ方、UI・UX知識、WEBトレンドの知識が必要。</li> <li>・専門の教育一定期間受けた人と比較するとデザイン分野のスキルやセンスに不足を感じるが、(訓練受講者は)導入がスムーズなのでWeb制作における技術面での不足は感じていないが、コミュニケーションスキルや質問したいことや悩みを文章化できる文章作成能力、質問できる能力が技術面よりも習得しておいてもらいたいことである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各コースの仕上がりに見合った訓練期間を設定するよう実施機関に提案。</li> <li>【デザイン】資格取得のみならず就職後すぐに使える技能(HP作成のソフトなど)を取得させるカリキュラムの導入を提案もしくは、カリキュラム導入によるメリットの周知。</li> <li>【IT】基本情報技術者試験の合格等を目指すカリキュラムのニーズがあることを実施機関に情報提供。</li> <li>【共通】キャリアコンサルティング、職業人講話、職場見学などをカリキュラムに追加するよう実施機関に提案。</li> <li>・訓練修了者歓迎求人等の確保を推進。ハローワーク等が実施機関に出張し、職業相談を実施</li> <li>・公共職業訓練(委託訓練)の委託費、認定職業訓練実施奨励金の単価アップ等、厚生労働省へ報告</li> </ul>